

SHUNKEN 2010-04 38-01

# 卒業達成度評価科目「建築学総合演習」Q&A

岡田 章

平成 20 年度カリキュラムが始まって 3 年目に入った。今年 3 年生の学生は、来年度には新規科目「卒業達成度評価科目」を履修することになる。この科目は本カリキュラムの特徴の 1 つでもあるのだが、はたしてどれだけ理解されているだろうか。卒業試験のようなもの、程度の認識ではないだろうか。建築学科では教員による WG を昨年度に設置し、具体的な実施計画の策定に入っている。ここでは、WG の検討を通じて固まってきた基本コンセプトを Q&A 形式で示そうと思う。

**【Q】理工学部では、卒業達成度評価科目をなぜ設置したのか？**

[A] 大学の教育の質に対して、社会が厳しい目を向けるようになってきたことが要因。教育再生会議の「大学の教育の質の評価」や中教審の「学士力」などの言葉にも、この風潮が表われている。これに対して、理工学部では必修の卒業達成度評価科目を設置することで、卒業時の質を保証することに踏み切った。このアイディアは、他大学からディプロマ・ポリシーを明示する一手法として評価されている。

**【Q】建築学科の対応は？**

[A] 建築学科は、一級建築士の抜きん出た合格者数や、卒業生の活躍など、専門分野の教育レベルについては、既に高い評価を受けている。この評価を維持するとともに、さらなる PR の機会として、卒業達成度評価科目を積極的に受け入れることにした。科目名称は「建築学総合演習（必修 1 単位）」。さらにこの科目を補強するために「建築学総合講座（選択 2 単位）」も設置している。

**【Q】達成度の評価方法は？**

[A] 筆記試験で行う。科目は、一級建築士の学科試験の 5 分類（計画、環境・設備、法規、構造、施工）と同じとする。5 科目それぞれで所定の点数以上を取れば、単位が取得できる。

**【Q】試験の難易度は？**

[A] 建築学科では、卒業後 2 年間の実務経験後に一級建築士に合格できることを、教育目標の 1 つに設定している。建築学総合演習の試験は、これに対応したレベルとなっている。具体的には、一級建築士試験の中でも、易

しく基本的な問題程度である。なお、コース共通で設置された必修科目については、ミニマム・リクワイアメント（最低限、修得しておかなければならないレベル）をそれぞれで設定しており、これらについては 100% 正解しなければ合格できない方針である。

**【Q】選択科目については？**

[A] コース共通の選択科目についても試験の対象とする。正解率は 6 割程度を合格とする方針である。またコース独自に設置された科目については、一級建築士レベルを超えているため、試験対象にしない方向で検討している。

**【Q】なぜ一級建築士試験を意識した科目内容としたのか？**

[A] 建築学科の専門科目の多くは、一級建築士の学科試験より高いレベルを目標としており、一級建築士試験は基礎知識として妥当であると考えた。また今回の建築士法の改正で、ようやく建築士の業務独占が医者と同等に設定され、今後社会的地位も報酬も向上すると期待されており、目標とするのに相応しい資格と考えたことも挙げられる。さらに昨年度から始まった大学院のインターンシップの実施後アンケートには、「最低一級建築士レベルの基礎知識をもった学生の参加を望む」という企業側意見が寄せられたことも理由である。

**【Q】建築学科では一級建築士取得のみを教育目標としていないのでは？**

[A] その通り。大学の専門科目に求められているカリキュラム・ポリシーは、2 つに大別できる。1 つは専門職に欠かせない基礎知識の修得であり、もう 1 つは社会人基礎力の養成である。後者には課題発見力、デザイン力、解決能力などが含まれており、これらは設計や実験、また卒業研究・設計などを通じて評価すべきものであり、「建築学総合演習」の試験対象とはしていない。

**【Q】授業の進め方は？**

[A] 「建築学総合演習」は試験のみを、また「同講座」は講義形式で試験の解説を、行う予定である。時間割、クラス分け、試験回数、シラバスなどは現在検討中。また現在 WG では、試験の対象範囲と難易度を明らかにした問題集などを作成しようと考えている。

(おかだあきら・建築教室主任・教授)

# 平成22年度 建築学科 履修要項

## 履修に関する一般事項

### 履修要覧

建築学科を卒業するために必要な条件は、入学時に渡された「学部要覧」に収められた履修要覧、および「建

### 平成22年度 クラス担任 学部

学年	クラス担任		研究室(駿河台5号館)
1年	専門	山崎 誠子 (設計・計画)	587A室
	〃	宮里 直也 (環境・構造)	569A室
2年	1組	富田 隆太 (環境・構造)	579A室
	〃	佐藤 慎也 (設計・計画)	586B室
	2組	今村 雅樹 (設計・計画)	589B室
	〃	山中新太郎 (設計・計画)	588B室
3年	1組	橋本 修 (環境・構造)	578B室
	〃	山田 雅一 (環境・構造)	565B室
	2組	渡辺 富雄 (設計・計画)	585B室
	〃	田嶋 和樹 (環境・構造)	567B室
	1・2組	秦 一平 (環境・構造)	564B室
4年	1組	古橋 剛 (環境・構造)	564A室
	〃	川島 和彦 (企画経営)	594B室
	2組	宇杉 和夫 (設計・計画)	584A室
	〃	蜂巣 浩生 (環境・構造)	578A室
	再修生	中田 善久 (環境・構造)	566A室

### 大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程

1年	大川 三雄 (設計・計画)	576A室
2年	安達 俊夫 (環境・構造)	565A室

### 大学院理工学研究科不動産科学専攻博士前期課程

1年・2年	宇於崎勝也	595B室
-------	-------	-------

### 平成22年度 委員会他担当

就職指導	三橋 博巳	596A室
公務員対策	川島 和彦	594B室
学芸員	重枝 豊	575A室
学生相談室相談員	橋本 修	578B室
	佐藤 慎也	586B室
	山崎 誠子	587A室
建築教室事務室	栗原のり子	542室
	矢萩有美子	
設計講師室	岩崎 陽子	553室
	山田 明里	

「建築学科履修の手引き」に詳しく記載されている。これは大学と諸君との間の、教育に関する“契約”が述べられている重要文書であるため、卒業まで大事に取り扱い、年度初めには必ず読み直すべきものである。これら履修に関する諸規定は、諸君が卒業するまで変更することなく適用される。なお、本年度の2年次編入生には平成21年度の、また3年次編入生には平成20年度の履修規定が適用される。

これらの履修規定はカリキュラムの変更にもともなって改訂されることがある。1～3年次生は平成20年度改正のカリキュラム(以下、「H20カリキュラム」)、4～8年次生は平成15年度改正のカリキュラム(以下、「H15カリキュラム」)による。4年次以上の学生が1～3年次設置科目を受講する場合は、ガイダンス時に配布される新旧科目振替表(時間割の最終ページ参照)によってよく確認の上、受講計画を立てることが必要である。なお、入学時の履修規定に掲載されていない新規科目は受講できないことに注意してほしい。

### 相互履修および単位互換制度

日本大学相互履修制度は、所定の手続きを経て各学部の指定する講義を相互に履修できるようにしたもので、合格すれば単位が修得できる。受講可能科目、申請手続きなどはガイダンス時にクラス担任から説明がある。建築学科では、このようにして修得した単位を「卒業に必要な単位」には算入しないが、高学年で時間に余裕があれば、芸術、生産工、経済学部などの講義を受講して知識を広めるとよい。単位互換制度は、理工学部と短期大学部間で、それぞれ指定された講義を相互に履修できるようにしたものである。上の相互履修制度を短期大学部にまで広げたと考えればよい。詳細情報は教務課またはクラス担任から伝えられる。

### 他学科設置科目の受講

2年次生は40単位以上、3年次生は85単位以上、4年次生は125単位以上を修得し、受講計画に余裕があって、クラス担任から必要と認められた場合、受講科目担当教員の許可を得て、建築学科以外の学科に設置された基礎教育および専門教育科目を受講することができる。詳しく

くは「学部要覧」を参照されたい。

### 受講届

毎年新学期の受講計画は、指定された期限までに受講届を提出し、教務課に登録されたことを確認しなければならない。登録していない科目の試験を受けて合格しても単位は認められない。届出・確認の手続きは必ず自分の責任において行い、控えをとっておくこと。

### 教職課程・学芸員課程の受講

中学校および高等学校の教員免許または学芸員資格を取得希望の者は、それぞれの課程科目を受講することができる。履修条件その他の詳細は、「学部要覧」を参照されたい。

### GPA 制度 (Grade Point Average)

平成17年度入学生より日本大学として統一の成績評価システム (GPA 制度) が導入された。これは授業内容の向上や成績評価の統一化などを目的としたもので、不合格科目や履修登録後の未履修科目の成績も考慮されることが特徴である。詳細は、1年次のガイダンス時にクラス担任から説明がある。

### サブメジャー制度

サブメジャー (副専攻) 制度が平成20年度入学生より適用され、他学科に設置された科目群の中から16単位を修得することで、建築学科の学位とは別に、特定分野の学習成果を理工学部が認証する。修了者には修了証書が授与される。詳しくは「学部要覧」および時間割を参照されたい。

### 早期卒業

本学部に3年以上在学し、卒業の条件として定める単位を優秀な成績で修得したと認められる者で、日本大学大学院理工学研究科に進学する者を対象とする制度で、平成20年度入学生より適用される。早期卒業者でも通常の卒業者と同様に建築学科の学位を取得でき、一級建築士の受験資格のための学歴要件も満足することができるが、認定されるためにはさまざまな条件が設定されている。詳細は「学部要覧」を参照するとともにクラス担任に相談されたい。

---

## 1年次生

---

### 履修要項と学科の概要について

1年次生は、ガイダンスの時に配布される「平成22年度 (2010) 学部要覧」に示された履修要覧に従って卒業まで学修する。この「学部要覧」には、履修規定、履修方法のほかに、各年次別の授業科目、単位、履修順序、受講手続きの方法、受講計画上の注意、教職課程の履修方法および学生生活に関する情報が掲載されているので、

卒業まで大事に保管し、よく検討して学修計画を立てること。また各授業科目の内容は、「学部要覧」の科目概要およびガイダンス時に配布される授業計画 (シラバス CD-ROM) で知ることができる。

建築学科の概要や教育目標、学修方法、コース (環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コース) の選択、その他については、ガイダンス当日に教室主任およびクラス担任の先生から説明がある。

### H20カリキュラムについて

平成20年度から始まったカリキュラムは、将来必要となる国際資格 (JABEE, UNESCO-UIA) にも対応した科目構成となっており、専門科目の受講に必要な基礎教養や技術を修得することを目的としている。「学部要覧」の授業科目配置表を見るとわかるように、1年次からの2年間で建築学の基礎となる幅広い領域の専門教育が受けられること、3年次からは、「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」を選択し、より高度な専門分野の知識と技術が習得できることが本カリキュラムの特徴である。なお、いずれのコースを選択しても一級建築士レベルの知識が得られるように工夫されている。各コースの履修の詳細については別途配布する「建築学科履修の手引き」を参照されたい。コースの選択・登録は2年次後期終了時に行われる。各コースには定員が設けられており、各人の希望、取得科目・単位、適性などを考慮しながら、建築学科教室がコースを決定する。

### 教養教育科目・外国語科目の履修について

時間割表を見るとわかるように、大学生にふさわしい人格形成のため、さらにこれから専門教育を受ける上で必要と思われる教養教育科目が1年次に設置されている。

外国語科目は、英語を中心にして、第2外国語にドイツ語、フランス語、その他を選択するとよい。

### 基礎教育科目の履修について

基礎教育科目は、工学全般の基礎となる「(選択) 共通基礎教育科目」と、専門教育を受ける上で基礎となる知識や学力を蓄えることを目標とした「(必修/選択) 専門基礎教育科目」が設置されている。専門基礎教育科目には、「デザイン基礎」、「建築基礎実験」の必修2科目および「建築基礎数学」、「建築基礎物理Ⅰ、Ⅱ」、「コンピュータリテラシ」の選択4科目が設置されている。これらはすべて建築学の基礎であるから、1年次ですべて受講するとよい。なお、専門基礎教育科目は駿河台校舎には設置されないこと、「デザイン基礎」の単位を修得しないと「建築設計Ⅰ」を受講できないことに留意すべきである。

### 専門教育科目の履修について

専門教育科目には、必修5科目と選択5科目の計10科目が設置されている。この内、「環境の計画と技術 (必修)」、「社会と建築・都市インセンティブ (必修)」、「建

「建築デザインと歴史」、「構造の計画と技術」の4科目は、広汎な建築分野への導入と学習意識の向上を図るために設けた科目である。これらは2年次以降の専門科目を履修するための基礎知識を修得するものであり、すべての受講をすすめる。また、「建築スタディ・スキルズ（必修）」は、専門科目を履修するための基礎教養や技術を修得するものである。なお、1年次の専門教育科目は駿河台校舎には原則として設置されないこと、「建築設計Ⅰ」の単位を修得しないと「建築設計Ⅱ」を受講できないことに留意すべきである。

1年次では最大49単位までの履修登録が認められる。無計画に毎日5時間まで授業を組む必要はない。卒業までの4年間でどう過ごすかを十分に考えた上で、長期的な視野で受講計画を立てることをすすめる。

---

## 2年次生

---

### 専門教育科目の履修について

履修規定は入学時に配布した「平成21年度（2009）学部要覧」による。2年次から本格的な専門教育課程に入り、教育効果を高めるために2クラスに分けて各専門科目を受講するように時間割が編成されている。クラスは学生番号が奇数の学生が1組、偶数の学生が2組である。それぞれ該当するクラスの時間割に従って、受講計画を立ててほしい。なお、1年次設置の専門教育科目を受講する必要のある者は、原則として船橋校舎の授業を受けなければならない。

2年次設置の専門教育科目は、いずれも建築を学んでいく上の基礎的な科目であり、ほぼ二級建築士レベルの内容を扱っていると考えてよい。このため、必修科目（12科目）はもちろんのこと、共通に位置づけられている7科目についても、「必修」と同様に考えて受講してほしい。また、環境・設備系群、構造・生産系群、設計・計画系群、企画経営系群に分類されている科目の中には、一級建築士受験の必須科目である「構造力学Ⅲ」や、専門的な内容を扱う「建築企画経営」なども含まれている。これらは次年度選択することになるコースの入門的な内容で、コースをまたがって受講できるようになっている。この内、「建築企画経営」は企画経営コースの選択必修科目（卒業のためには◆印6科目中5科目以上を修得する必要がある）であり、本コースを目指す場合には必ず受講することをすすめる。

H20カリキュラムの系統図や分類については、1年次のガイダンスで配布した「2009年 建築学科履修の手引き」を再読して、各科目の位置づけと相互の関連をよく検討した上で選択科目を決めるとよい。なお、3年次終了ま

で卒業に必要な単位の約78%にあたる102単位以上を修得していないと、4年間で卒業できない。受講計画全般については、クラス担任に相談するとよい。

### 基礎教育科目の受講について

2年次に設置されている基礎教育科目は、共通基礎教育科目では「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」、「科学技術史」、専門基礎教育科目では「材料化学Ⅰ」、「建築情報処理Ⅰ」の5科目が設置されている。受講計画は、環境工学、構造、都市計画の基礎として「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」を、構造・材料の基礎として「材料化学Ⅰ」を、環境工学、建築計画の基礎として「建築情報処理Ⅰ」の受講をすすめる。

### 環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コースの選択と登録について

2年次の終了時に、「環境・構造コース」、「設計・計画コース」、「企画経営コース」のいずれかを選択・登録し、3年次以後は、それぞれのコースのカリキュラムに従って、各科目の受講計画を立てることになる。ここで注意すべきことは、コース毎に卒業条件が定められていることである。また、3年次にはコース毎に独自の専門教育科目が設置されている。これらの科目はコース決定後に初めて受講できること、また他コースの独自科目の受講は他学科受講扱いになることにも注意してほしい。いいかえれば、2年次終了時にいずれかのコースに着手できなければ、4年間での卒業が不可能になることを肝に銘じてほしい。

コースに着手できる条件として、建築学科教室は「2年終了時の取得総単位数が52単位」という条件を設定している。これは卒業研究・設計への着手条件（3年次終了時に98単位）から、1年間で取得できる単位数の上限（46単位）を差し引いた数値で、大部分の学生が無理なく修得できる単位数であろう。

コースの決定は、学生の希望を十分に尊重することを原則とするが、希望コースの偏りが生じた場合には、教育の質を確保するために振り分けを実施せざるを得ない場合もある。このコース振り分けはクラス担任を中心に建築学科教室が実施するが、学生個々の修得科目の成績（総得点、平均点）や内容などに基き適性を勘案しながら決定する方針である。これらの具体的な振り分け方法については、後日クラス担任から説明がある。なお各コースの最大受け入れ可能な学生数の目安は、教室・製図室の収容人数やコース設定時の定員から、環境・構造コースと設計・計画コースはそれぞれ約150名、企画経営コースは約50名と定めている。

コースの決定は次のようなスケジュールで実施する予定である。まず前期終了時または後期開始時に、希望コースのアンケートを行う。これは希望コースの偏りの推定のために実施するため、必ずアンケートに応じてほしい。続いて後期終了時に希望コースの登録を実施する。クラ

ス担任は、登録された希望コースに基づいて春季休暇中にコースを決定し、3年次開始時のガイダンス前に発表を行う。以上の具体的な日程は掲示や建築学科のホームページを通じてクラス担任から伝えられるので、確認を怠らないように心がけてほしい。

### 「建築生産実験」、「建築設計Ⅱ、Ⅲ」の受講について

実験も建築設計も十数名の小グループに分けて行われるので、それぞれのガイダンスには必ず出席すること。駿河台校舎の実験室は手狭なので、各班ごとに時間をずらして各種実験が行われることが多い。実験の予定・準備する資料やその他の注意事項は駿河台校舎5号館4階および6階EVホール掲示板に掲示されるので、確認するように心がけてほしい。また、建築設計の注意事項は5階EVホール掲示板に掲示される。

## 3年次生

### 各コースの受講に関する原則について

3年次では、自分が所属する環境・構造コース、設計・計画コース、企画経営コースのいずれかのコースのカリキュラムに沿って、受講計画を立てる必要がある。各コースで受講できる科目は、時間割を見ると判断しやすい。3年次からの時間割は2年次までのようにクラス毎に分かれてはならず、コース毎に分かれて記載されている。各

コースの時間割に掲載されている科目は、入学時に配布された「平成20年度(2008)学部要覧」あるいは「2008年度 建築学科履修の手引き」の授業科目配置表に対応している。各自が所属するコースの科目を受講する場合には何ら制限はないが、他コースに設置した科目を受講する場合には制限がある。後述する「他コース設置科目の受講について」を参照してほしい。

受講計画の際には履修登録単位数の上限(46単位)について留意すべきであるが、2年次までの設置科目、特に1、2年次必修科目を未修得の場合、優先的に受講する必要がある。この場合、卒業研究・設計着手条件を満足することも重要である。受講計画が困難な場合にはクラス担任に相談するとよい。

### 基礎教育科目の受講について

3年次に設置されている基礎教育科目は、共通基礎教育科目では「数理統計学Ⅰ、Ⅱ」が、また専門基礎教育科目では、「材料化学Ⅱ」、「建築情報処理Ⅱ」、「振動工学」、「芸術史」が設置されている。受講計画上は、環境・構造・建築計画・都市計画の基礎として「数理統計学Ⅰ、Ⅱ」を、構造・材料の基礎として「材料化学Ⅱ」を、構造の基礎として「建築情報処理Ⅱ」、「振動工学」を、建築計画・設計の基礎として「芸術史」の受講をすすめる。

### 専門教育科目「共通科目」の受講について

3年次以上の専門教育科目は、「共通科目」と「各コース独自科目」に大別できる。

表1 3年次専門教育科目「共通科目」の構成

科目名	単位	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
※都市計画Ⅰ	2	●	●	●
建築環境実験	1	●	○	○
建築構造実験	1	●	○	×
建築設計Ⅳ	2	○	●	●
企画経営実習	1	×	×	●
※建築施工法	2	○	○	○
※建築積算・生産管理	2	○	○	○
※地盤基礎工学Ⅰ	2	○	○	○
※鋼構造	2	●	●	●
※鉄筋コンクリート構造Ⅰ	2	●	●	●
※建築設備Ⅱ	2	○	○	○
循環環境管理	2	○	○	△
建築人間工学	2	○	○	○
ゼミナール	1	○	○	○

● 必修 ○ 選択 △ 他学科受講により受講可能 × 受講不可  
※ 一級建築士受験のために重要

表2 3年次専門教育科目「各コース独自科目」一覧

	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
科目名と単位	建築設備Ⅲ	2 ×建築設計Ⅴ	2 都市デザイン*2
	環境工学Ⅲ	2 ×設計演習Ⅱ	2 経済学特論Ⅰ
	構造力学Ⅳ	2 ×設計演習Ⅲ	2 経済学特論Ⅱ
	構造力学演習Ⅳ	1 設計計画Ⅰ	2 会計学
	地盤基礎工学Ⅱ	2 設計計画Ⅱ	2 民法Ⅰ
	対地震構造	2 ランドスケープデザイン	2 民法Ⅱ
	鉄筋コンクリート構造Ⅱ	2 インテリアデザイン	2 行政法規
	構造設計Ⅰ及び演習	3 建築史Ⅲ	2 不動産経営
		2 建築史Ⅳ	2 不動産維持管理
		2 都市デザイン*2	2 鑑定評価理論Ⅰ
		2 ×都市調査及び演習	2 環境システム解析
		2 ×デザインワークショップⅠ*1	2 地域開発計画
		2 ×デザインワークショップⅡ*1	2 住環境計画
			2 ×住環境デザイン
		2 ×不動産企画	

× 他コースは受講不可能

\*1 夏季集中講義として、「デザインワークショップⅠ」と「同Ⅱ」が交互に隔年で開講される。平成22年度は「同Ⅱ」が開かれる

\*2 設計・計画コースと企画経営コースの共通科目

「共通科目」は必修科目と選択科目に分かれているが、建築を学ぶ上で基礎となる科目であり、一級建築士受験の際に不可欠な科目も含まれている。共通科目の「共通」という意味は、「コースに関わらず同じ内容（シラバス）で実施する科目」ということであるが、各コースによって必修・選択の区別などの取り扱いが異なっている科目もあるため、注意が必要である。表1を参考にしてほしい。

表1の中で△印は他学科受講の手続きを行った後に受講可能な科目を、また×印は他学科受講が認められない科目である。詳しくは後述の「他コース設置科目の受講について」を参照してほしい。

また、表1の※印のついた科目は、一級建築士受験のために極めて重要と考えられる科目である。所属コースに関わらず受講することを強くすすめる。

「ゼミナール」は、卒業研究・設計の着手前に、各研究室で行われている研究の状況を実際に体験してもらうことを目的として設置された選択科目である。事務処理上、いずれかの研究室に所属することになるが、他研究室が開講する講座を自由に受講することが可能である。所属研究室および受講研究室は、所属コースに関係なく希望することができる。「ゼミナール」の実施要項やスケジュールは、前期試験の終了時にクラス担任から具体的な説明がある。

#### 専門教育科目「各コース独自科目」の受講について

各コースで設定された「独自科目」は、共通科目より専門性の高い科目で、各コース独自の教育目標に対応して設置されたものである。いずれも将来のスペシャリストを目指す上で基礎的で重要な科目である。時間割上、これらの科目は当該コースにしか設置されていないが、他コースに設置された科目を受講する場合には、他学科受講扱いとして承認が必要なこと、卒業条件には6単位まで算入可能であるが、卒業研究・設計着手条件には算入されないことに注意してほしい（後述の「他コース設置科目の受講について」を参照のこと）。

表2に3年次に設置された「各コース独自科目」の一覧を示す。×印の科目は、他コースの学生は受講不可能であることに注意してほしい。

#### 他コース設置科目の受講について

時間割において自分が所属するコースに設置されている科目のみを受講することを原則とする。すなわち「共通科目」のように、所属コースと他コースで同一名の科目がある場合でも、他コースの科目を受講することは原則的に認められない。しかし、コース独自科目のように、所属しているコースに受講希望の科目がない場合は、以下の条件をすべて満足する場合に限り受講が認められる。

- ・2年次終了までの修得単位数が85単位以上の場合（3年次編入生は緩和措置があるので、担任と相談すること）。

- ・3年次終了時に卒業研究・設計着手条件を満足する見込みがあり、かつ受講計画に余裕がある場合。
- ・クラス担任と科目担当教員が許可した場合（許可印が必要）。
- ・当該科目が、実験・実習・設計などの科目でない場合（具体的には表1および表2中の×印のついた科目は、受講ができない）。

これらの条件は、他学科設置科目の受講の場合と同じものである。すなわち、他コースの独自科目受講は他学科の設置科目受講扱いになることに注意してほしい。

また、こうして修得した単位は、6単位までは「卒業に必要な単位」に算入することは可能であるが、卒業研究・設計着手条件には算入できないことに留意すべきである。

#### 卒業研究・設計着手条件について

4年次に卒業研究・設計に着手するためには、卒業条件の単位数130単位の約75%に当たる98単位以上を3年次中に修得しなければならない。この単位数は、単に3年次までに修得した単位の合計ではなく、卒業条件を考慮した以下の条件を満足する必要があるため、十分に注意してほしい。この卒業研究・設計の着手条件は厳守され、例外はない。

- ・教養教育科目、保健体育科目、基礎教育科目はそれぞれ、10単位、2単位、22単位まで算入する（それぞれの単位数を超えて修得している場合でも、当該単位数として扱われる）。
- ・外国語科目は、英語を含めて10単位まで算入する。
- ・他学科の設置科目（他コースの独自科目も含む）は、算入しない。
- ・1、2年次設置の必修科目をすべて修得していること。
- ・専門教育科目の3年次までの必修科目（環境・構造コース：21科目38単位、設計・計画コース：20科目38単位、企画経営コース：21科目39単位）から24単位以上修得していなければならない。
- ・専門教育科目の修得単位数の合計が、必修科目を含めて60単位以上修得していること。

また、4年次の卒業研究・設計に十分な時間をかけて悔いのない大学生活を送るためには、3年次終了までに修得単位数が卒業条件として有効な単位だけで少なくとも114単位以上あることが望ましい。

#### 3年次編入生の受講について

3年次編入生は、1、2年次の設置科目から優先的に受講しなければならない。なお、編入生は認定単位の制約から3年次の受講計画が一番困難である。このため編入生には、他コース設置科目の受講に関して、特別な条件が設定されることがあるので、受講計画立案の段階でクラス担任によく相談してほしい。

## 就職について

本来ならば、4年次になって卒業研究・設計指導の先生が決まり、しばらく研究室活動を行ってから、大学院進学や就職先など卒業後の進路について指導の先生と相談するのが理想であるが、実際には就職活動は3年次の11月頃から始めざるを得ないようになってしまっている。そこで、積極的に建築学科教室の就職情報（学内のみ閲覧可能なホームページによる情報あり）を見たり、企業のホームページ、D.M.を検討するなど、情報収集はできるだけ広い範囲で行い、進路について身近な先生方や先輩、両親などに早めに相談するとよい。

### 4年次生

4年次の新学期で最も大事なことは、諸君のそれまでの修得単位数によって当該年度に卒業する見込みがあるかどうかの判断が下されることである。卒業見込み者＝卒業研究・設計着手者であり、大学生活最後の年度は卒業研究・設計のテーマ設定と指導教員の選択から始まる。

#### 卒業研究・設計の着手について

建築学科における卒業研究・設計着手条件は、上述の「3

年次生」の項目に記述している「卒業研究・設計着手条件について」を参照すること。この条件を満たした学生に対しては、理工学部より卒業見込証明書が発行される。

卒業研究・設計着手条件を満足する学生は、「駿建」2010年1月号のテーマを参考にして、自分の希望する研究室に卒業研究・設計の申し込みをすることができる。原則として、研究室は所属コースに関係なく希望することができるが、着手のための条件を定めている研究室もある。上述の「駿建」や4月初めの卒業研究・設計ガイダンスを通じて情報収集につとめてほしい。

申し込みの方法などについては、クラス担任から4年次事務ガイダンスの際に詳しい説明がある。

#### 卒業研究・設計とは

大学生生活の締めくくりは、4年生の卒業研究・設計である。各研究室が自由に、国際的に通じるような研究・設計を行い、その成果を背景として生きた教育を行っていくことに意義があり、そこに大学の活力が生まれる。したがって、各研究室に所属する大学院生と4年生に対する指導、すなわち修士論文・設計と卒業研究・設計の指導が、先生個人にも大学にとっても教育の中心となっている。先輩・後輩のつながりや講義では得られない先生方との貴重なふれあいが、「自ら学ぶこと」をモットーとする大学での最も重要な時間となる。1年間、研究室に所属して担当教員と研究・設計テーマを追求し、大学院進学も含めて、広い領域を含んだ「建築」の中から自分の個性や適性にあった指標を定めていく。

研究・設計には、個人あるいはグループがあるが、いずれの場合も自分の可能性をみつめながら真剣に学び、学問だけでなく、生涯の友をつくり、自分を磨くこと、それが卒業研究・設計である。

#### 専門教育科目の受講について

環境・構造、設計・計画、企画経営の各コースの4年次に設置されている専門教育科目を表3と4に示す。2, 3年次の主な専門教育科目を修得した上で、将来の進路なども考慮して、所属しているコースの設置科目から選択して受講するとよい。他コースに設置されている科目を受講することも可能であるが、以下の条件をすべて満足する必要がある。

- ・3年次終了時までの修得単位数が125単位以上の場合。
- ・4年次終了時に卒業できる見込みがあり、かつ受講計画に余裕がある場合。
- ・クラス担任と科目担当教員が許可した場合（許可印が必要）。
- ・当該科目が、実験・実習・設計などの科目でない場合（具体的には表4中の×印の付いた科目は受講できない）。

なお、他コース設置科目を修得した場合、10単位までは「卒業に必要な単位」として算定することができる。

表3 4年次設置共通科目の構成

科目名	単位	環境・構造コース	設計・計画コース	企画経営コース
卒業研究・設計	10	●	●	●
防災計画	2	○	○	○
建築経済	2	○	○	△
建築法規Ⅱ	2	○	○	△
都市計画Ⅱ	2	○	○	○

● 必修 ○ 選択 △ 他学科受講により受講可能

表4 各コースの独自科目一覧（4年次）

科目名と単位	環境・構造コース		設計・計画コース		企画経営コース	
	単	位	単	位	単	位
環境計画	2		特別講義*1 (デザイン論)	2	不動産特別講義	2
設備計画	2		×建築設計Ⅵ	2	不動産 マーケティング	2
特別講義*1 (構造設計論)	2		設計計画Ⅲ	2	鑑定評価理論Ⅱ	2
×測量及び実習	2		保存修復論	2	都市防災	2
構造解析法	2		×デザインワーク ショップⅠ*2	1	×不動産企画 及び演習Ⅱ	2
構造設計Ⅱ	2		×デザインワーク ショップⅡ*2	1	建築 マネジメントⅡ	2

× 他コースは受講不可能

\*1 どちらか一方のテーマを選択・受講

\*2 夏季集中講義として、「デザインワークショップⅠ」と「同Ⅱ」が交互に隔年で開講される。平成22年度は「同Ⅱ」が開かれる

## 専門教育科目に関する卒業条件

建築学科の卒業に必要な単位は130単位以上と設定されているが、この内、総合教育科目が14単位、外国語科目が10単位、保健体育科目が2単位、基礎教育科目が16単位、その他いずれの科目区分にもよらない科目（他学科・他コース設置科目も含む）が10単位、それぞれ上限値として算入されるため、専門教育科目としては78単位以上取得する必要がある。この専門教育科目に関わる卒業条件は各コースの特徴を反映しているため、コース毎に大きく異なっており、注意が必要である。例えば環境・構造コースは共通科目の取得を重視しているのに対して、設計・計画コース、企画経営コースは3年次以上のコース独自科目の修得が必要とされている。

### 【環境・構造コース】

- ①必修科目 18科目 41単位
- ②選択共通科目（26科目 50単位）から、1・2年次の科目（12科目 23単位）9科目以上を含めて29単位
- ③環境・設備系群科目（6科目 10単位）から8単位、または構造・生産系群科目（15科目 27単位）から8単位の3条件が設定されている。各コースは以下の条件をすべて満足して、78単位以上修得することが条件となっている。これは卒業研究・設計に着手できた場合、4年次前期で十分に修得できる単位数である。履修計画を立てる際には、各自の進路や卒業研究・設計テーマとも関連づけて、卒業研究・設計の指導教員やクラス担任と相談の上、選択するのが望ましい。

### 【設計・計画コース】

- ①必修科目 17科目 41単位
- ②選択共通科目（27科目 50単位）から1・2年次の科目（12科目 23単位）7科目以上を含めて17単位
- ③設計・計画系群科目（18科目 34単位）から20単位の3条件が設定されている。この内、③は2年次の科目の「設計演習Ⅰ」以外はすべて3年次以上のコース独自科目である（表2、4を参照）。この中には建築設計、設計演習、デザインワークショップなどの演習科目が比較的多く含まれており、受講計画の際にはこの点を考慮しておく必要がある。

### 【企画経営コース】

- ①必修科目 18科目 42単位
- ②選択共通科目（22科目 41単位）から12単位
- ③企画経営系群科目（21科目 41単位）から※印の科目（「建築企画経営」、「経済学特論Ⅰ」、「民法Ⅰ」、「建築企画設計」、「不動産企画及び演習Ⅰ、Ⅱ」の6科目 11単位）を5科目以上含めて24単位の3条件が設定されている。また、4年次設置の専門科目は、コース独自科目がほとんどである。

## 大学院進学について

デザイナー、構造デザイナー、（室内）環境設計者、研究職など、将来、専門性の強い分野での活動を目指す諸君には、大学院博士前期（修士）課程への進学をすすめる。最近の就職事情をみると、これらの分野への就職は大学院修了者が断然有利である。

建築学科の卒業生が進学する理工学研究科の専攻としては、「建築学専攻」および「不動産科学専攻」が挙げられる。理工学研究科は博士前期（修士）課程と博士後期（博士）課程を設置している。建築学および不動産科学専攻の平成23年度入学試験の募集定員はそれぞれ50、10名の予定である。

ここでは建築学専攻の修士課程進学についてのみ説明する。学部の卒業見込者および卒業生（社会人は除く）が受験できる入学試験は、7月に実施される「学内推薦入学試験」と「一般第Ⅰ期入学試験」、9月に実施される「一般第Ⅱ期入学試験」および3月実施の「一般第Ⅲ期入学試験」の4種類である。

現状では、大学院進学者は学部4年次卒業研究・設計の指導教員の下で継続して指導を受けるケースが大部分を占めている。したがって、進学希望者は大学院での学修・勉強・研究・設計などを視野に入れて卒業研究・設計の指導教員の研究・設計活動などに関する情報を収集しておくことをすすめる。

大学院修士課程の学生を指導できる教員（現状17名）を次に示す。ここではこれらの教員を「大学院教員」と呼ぶことにする。

- 環境・設備系（環境工学特別研究）：2名  
池田耕一、井上勝夫
- 材料・構造・防災系（建築材料学特別研究、建築構造学特別研究、防災工学特別研究）：7名  
中田善久（材料）、安達俊夫（構造）、白井伸明（構造）、半貫敏夫（構造）、三橋博巳（構造）、岡田 章（構造）、古橋 剛（防災）
- 設計・計画系（建築史特別研究、建築設計特別研究、建築計画特別研究、都市計画特別研究）：8名  
大川三雄（建築史）、重枝 豊（建築史）、本杉省三（設計・計画）、横河 健（設計）、今村雅樹（設計）、佐藤光彦（設計）、八藤後 猛（計画）、根上彰生（都市計画）

建築学科では、より広い分野にわたる教育・研究活動の推進、充実した指導体制の確立などを目指して以下のルールを設けている。

- ①大学院教員1人あたりの受入大学院生数は概ね6名までとする。
- ②学内推薦入学試験の受験資格は、卒業見込者の成績（卒業研究着手時）が概ね上位25～30%に入る学生で、大学院教員の推薦を受けた者とする。ただし、大学院

教員が推薦できる学生数は最大4名までとする。

- ③大学院の推薦入学試験および一般入学試験の受験希望者は、国家公務員採用試験を受験していることが望ましい。
- ④短大教員を含む専任講師・助教以上の大学院教員以外の教員は、大学院教員と協同指導することで大学院生を受け入れることができる。ただし、受入大学院生は教員1人あたり2名までとし、協同指導の大学院教員の6名枠には含めないものとする。

以上が大学院進学に関する情報の概要であるが、詳しくは4年生クラス担任に相談するとよい。

また、不動産科学専攻に関する詳細な情報を知りたい学生は、三橋博巳教授に相談すること。

### 建築実験について

建築実験は、それぞれ十数名の班単位で行われる。各実験項目についての班分けや実施日程などは、別にプリントとして新学期の総合ガイダンス時にクラス担任から配布される。実験科目と実験項目、担当者一覧を表5に示す。

### 建築設計について

1～3年次生は、H20カリキュラム、4～8年次生は、

H15カリキュラムでの履修になるので留意すること。

- ・建築設計の受講に関する手続きの詳細は、学期初めに行う建築設計ガイダンスの際に配布する「2010年度 建築設計課題集」に記載してある。本年度の建築設計科目の担当者、事務担当者についても課題集を参照のこと。
- ・建築設計関係科目に関する一般的な連絡は、駿河台校舎は5号館5階EVホール掲示板、船橋校舎は14号館3階講師室前に掲示する。

選択するコースによって、建築設計科目の履修条件が異なるので十分留意すること。

「建築設計」はⅠ～Ⅲまでが全コース必修科目で、2年次後期の「設計演習Ⅰ」は選択科目である。3年次前期の「建築設計Ⅳ」は、設計・計画、企画経営コースでは必修科目、環境・構造コースでは選択科目であり、課題内容も異なる。

「建築設計Ⅴ、Ⅵ」、「設計演習Ⅱ、Ⅲ」、「デザインワークショップⅠ、Ⅱ」は、設計・計画コースのみの設置科目であり、選択科目である。将来、主として設計（デザイン）方面に進む学生を対象とした課題によって構成されている。

「デザインワークショップⅠ、Ⅱ」は、3、4年次生を対象として、夏季集中授業として交互に隔年で開講される。  
 ・必修科目である「デザイン基礎」、「建築設計Ⅰ～Ⅲ」は、設置順に段階的に単位を修得しなければならない。  
 ・選択科目である「建築設計Ⅳ～Ⅵ」、「設計演習Ⅰ～Ⅲ」は、設置順に段階的に単位を修得することが望ましい。

表5 建築実験の実験項目と担当者一覧

実験科目名と担当責任者	実験項目と担当者
建築基礎実験（必修・2単位） 宮里	化学実験（一般化学：小泉） 物理実験（一般物理：伴） 専門科目 構造部材（宮里） 構造強度（宮里） 風洞実験（三橋，下村，広部） 振動実験（古橋（剛），秦）
建築生産実験（必修・1単位） 中田	木材・コンクリート実験 （中田，飛坂，和美） 鋼材実験（半貫，三橋）
建築環境実験（環境・構造コース：必修，他コース：選択；1単位）井上	騒音実験（井上，雷田） 設備実験（池田，蜂巣） 光実験（橋本，加藤）
建築構造実験（環境・構造コース：必修，設計・計画コース：選択；1単位）宮里	構造安定実験（宮里） 構造部材実験（白井，田嶋，清水（泰）） 土質実験（安達，山田）

（注）実験項目については、担当者の研究室へ、合否その他総合的な質疑は、担当責任者に問い合わせること

表6 建築設計科目一覧

学年	前・後期	科目
1年	前期	デザイン基礎
	後期	建築設計Ⅰ
2年	前期	建築設計Ⅱ
	後期	建築設計Ⅲ 設計演習Ⅰ
3年	前期	建築設計Ⅳ* 設計演習Ⅱ
	後期	建築設計Ⅴ 設計演習Ⅲ
	夏季集中	デザインワークショップⅠ，Ⅱ
4年	前期	建築設計Ⅵ
	夏季集中	デザインワークショップⅠ，Ⅱ
	前・後期	卒業研究・設計

■ 全コース必修  
 \* 設計・計画コース、企画経営コースの学生は必修

## 建築士受験資格について

平成 20 年 11 月 28 日に改正建築士法が施行され、この改正で建築士受験資格の見直しがなされている。大学に関係する部分では、学歴要件、実務経験要件の変更がある。

### 学歴要件

建築士試験の受験資格について、「所定の学科卒業」という従来の要件から、「国土交通大臣が指定する科目を修めて卒業」という要件に変更された。この見直しは平成 21 年度入学生から適用される。法施行時（平成 20 年 11 月 28 日）に既に所定の学科を卒業している人、所定の学科に在学中の学生には従来の学歴要件が適用される。

新制度では学科が国土交通大臣に対して開講科目を登録し、学生一人ひとりが卒業までに履修した科目の内訳と単位数に応じて、建築士受験資格を得ることになる。

建築学科では、平成 21 年度は 92 科目 173 単位が登録されている。環境・構造、設計・計画の 2 コースは卒業条件を満たすだけで、自動的に実務経験 2 年で一級建築士の受験資格が、実務経験 0 年で二級・木造建築士の受験資格が得られる。一方、企画経営コースは卒業条件を満たすだけでは実務経験 2 年で一級建築士の受験資格が得られず、実務経験 3 年で一級建築士の受験資格が、実務経験 0 年で二級・木造建築士の受験資格が得られる。実務経験 2 年で一級建築士の受験資格を得るためには、履修科目の計画にあたって注意が必要である。登録科目についてはクラス担任に確認してほしい。

### 実務経験要件

建築士の受験には、学歴要件の他に定められた期間の実務経験が必要である。従来は大学院博士前期課程の修了が 2 年間の実務経験に認められていたが、新制度では、大学院における建築設計（意匠設計、構造設計、設備設計等）・工事監理に関するインターンシップを必須条件として、これと連携した演習・実習等の科目、講義科目の単位取得状況に応じて実務経験年数を算定する。この見直しは平成 21 年度大学院入学生から適用される。法施行時（平成 20 年 11 月 28 日）に既に所定の課程を修了している人、所定の課程に在学中の大学院生には従来の実務経験年数の算定が適用される。

新制度では専攻科が国土交通大臣に対して開講科目を登録し、学生一人ひとりが大学院修了までに履修した科目の内訳と単位数に応じて、実務経験年数を算定する。

建築学専攻科では、平成 22 年度は、夏季休暇、春季休暇を利用する学外のインターンシップⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴの他、学内のインターンシップ 2 科目と関連する演習・実習 5 科目、講義 13 科目が登録されている。これらの科目を履修することで、意匠設計、構造設計、設備設計の

各専門領域で 1 年または 2 年の実務経験年数を得ることが可能になっている。履修の仕方によっては、実務経験年数が 0 年となることもある。

履修計画にあたっては、学外のインターンシップは夏季休暇、春季休暇を利用すること、大学院修了の単位数には入らないこと等注意すべき点がある。自己の将来設計を考慮して、履修科目の計画をする必要がある。登録科目についてはクラス担任に確認してほしい。

### インターンシップ

インターンシップは性格の異なる 2 種類で構成されている。1 つは学外の建築士事務所等における実務訓練であり、もう 1 つは専任教員（実務として設計活動を行っている建築家／一級建築士＝プロフェッサー・アーキテクト）と設計事務所を自ら経営ないしチーフ・アーキテクトとして活動している建築家（非常勤講師／一級建築士）が連携して学内で行われる設計実務訓練である。

表 7 指定科目に係る必要単位数と必要な建築実務の経験年数 (大学)

指定科目	一級建築士試験			二級・木造建築士試験		
	7 単位	7 単位	7 単位	5 単位	5 単位	5 単位
①建築設計製図	7 単位	7 単位	7 単位	5 単位	5 単位	5 単位
②建築計画	7 単位	7 単位	7 単位	7 単位	7 単位	7 単位
③建築環境工学	2 単位	2 単位	2 単位			
④建築設備	2 単位	2 単位	2 単位	6 単位	6 単位	6 単位
⑤構造力学	4 単位	4 単位	4 単位			
⑥建築一般構造	3 単位	3 単位	3 単位			
⑦建築材料	2 単位	2 単位	2 単位	1 単位	1 単位	1 単位
⑧建築生産	2 単位	2 単位	2 単位	1 単位	1 単位	1 単位
⑨建築法規	1 単位	1 単位	1 単位	1 単位	1 単位	1 単位
①～⑨の計 (a)	30 単位	30 単位	30 単位	20 単位	20 単位	20 単位
⑩その他 (b)	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
(a) + (b)	60 単位	50 単位	40 単位	40 単位	30 単位	20 単位
必要な実務経験年数	2 年	3 年	4 年	0 年	1 年	2 年

表 8 実務経験年数と必要単位数

必要単位数		インターンシップ の単位数	インターンシップ関連科目 の単位数	
実務経験 2 年	実務経験 1 年		演習・実験・ 実習	講義
30 単位以上	15 単位以上	4 単位以上	8 単位以下	8 単位以下

# 建築学科 専門科目使用教科書並びに参考書

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
環境の計画と技術	環境工学用教材 環境編	日本建築学会 編	丸善	1,937	書店
構造の計画と技術	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	書店
	建築の絵本 建築構造のしくみ	川口 衛 他	彰国社	2,625	書店
建築デザインと歴史	建築デザインの戦略と手法 —作品分析による実例トレーニング	サイモン・アンウイン 著 重枝 豊 監訳 上利益弘 訳	彰国社	3,360	ガイダンス時に案内
環境工学 I	建築環境工学 [改訂2版]	田中俊六、武田 仁 他	井上書院	3,150	書店
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会	日本建築学会	1,890	書店
環境工学 II	建築音響と騒音防止計画	木村 翔	彰国社	3,570	建築音響研究室 (ガイダンス時に案内)
	建築環境工学用教材 環境編	日本建築学会 編	丸善	1,937	書店
建築設備 I, II, III	建築設備学教科書 新訂第二版	建築設備学教科書研究会 編著	彰国社	3,780	書店
	環境工学用教材 設備編	日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
	空気調和設備の実務の知識	空気調和・衛生工学会 編	オーム社	4,434	書店
	給排水・衛生設備の実務の知識	空気調和・衛生工学会 編	オーム社	4,414	書店
	暮らしの技術としての建築設備入門	吉田あきら 他	理工図書	4,148	書店
環境計画	実務的騒音対策指針 第二版	日本建築学会 編	技報堂出版	4,725	建築音響研究室 (ガイダンス時に案内)
建築基礎実験・建築生産実験	建築実験法	建築系学科 共著	彰国社	5,077	材料施工研究室(566A)
	はじめてまなぶちからとかたち	日本建築学会	日本建築学会	1,995	書店
構造力学 I, II	建築構造力学 (上巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に案内
	建築の構造とデザイン	斎藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
	わかる建築学4 建築構造学	安達、丸田 編	学芸出版社	2,940	書店
構造力学 III, IV	建築構造力学 (下巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に案内
	建築の構造とデザイン	斎藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
	鋼構造塑性設計指針	日本建築学会	日本建築学会	4,200	日本建築学会、書店
	わかる建築学4 建築構造学	安達、丸田 編	学芸出版社	2,940	書店
構造力学演習 I, II, III, IV	建築構造力学演習(上, 下)	齋藤謙次	理工図書	各1,837	ガイダンス時に案内
建築材料 I, II	最新建築材料学		井上書院		ガイダンス時に案内

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
応用力学Ⅰ, Ⅱ	建築材料力学	榎並 昭	彰国社	2,783	地盤基礎研究室(565B)
応用力学演習Ⅰ, Ⅱ	建築応用力学演習	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,310	書店
構造とデザイン	空間 構造 物語	斎藤公男	彰国社	3,780	書店
	建築の絵本 建築構造のしくみ	川口 衛 他	彰国社	2,625	書店
	建築の構造とデザイン	斎藤公男 監訳	丸善	2,940	書店
	柱のない空間 ースポーツ・ イベント・展示ホールー	日本建築学会	彰国社	1,937	空間構造デザイン研究室 (569A)
建築構法Ⅰ	図説テキスト 建築構造 (構造システムを理解する)		彰国社	2,730	書店
	構造用教材	日本建築学会	日本建築学会	1,937	書店
建築構法Ⅱ	建築構法	内田祥哉	市ヶ谷出版	2,940	書店
	構造用教材	日本建築学会	日本建築学会	1,937	
	図解テキスト 基本建築学	上杉 啓, 真鍋恒博 他	彰国社	4,410	
振動工学, 対地震構造	応答性能に基づく 「対震設計」入門	石丸辰治	彰国社	4,830	ガイダンス時に案内
鋼構造	鋼構造の設計	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,570	書店
	鋼構造設計演習	日本鉄鋼連盟	技報堂出版	4,935	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会 編	日本建築学会	5,040	日本建築学会, 書店
鉄筋コンクリート構造Ⅰ, Ⅱ	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	ガイダンス時に案内
	鉄筋コンクリート構造の設計 ー学びやすい構造設計		技報堂	5,250	書店
建築施工法, 建築積算	建築の施工と見積	建築の施工と見積研究会	彰国社	4,620	鋼構造研究室(568B)
地盤基礎工学Ⅰ, Ⅱ	基礎構造の設計 ー学びやすい構造設計ー	日本建築学会関東支部	日本建築学会 関東支部	3,600	地盤基礎研究室(565B)
	建築基礎構造設計指針 (2001改定)	日本建築学会	日本建築学会	5,670	日本建築学会, 書店
構造設計法及び演習Ⅰ 構造設計Ⅱ	鉄筋コンクリート構造計 算規準・同解説2010	日本建築学会	日本建築学会	6,720	日本建築学会, 書店
	建築学構造シリーズ 建築空間構造	皆川洋一 編著	オーム社	3,990	空間構造デザイン研究室 (569A)
	構造設計論	佐藤邦昭	鹿島出版会	3,255	書店
	鋼構造設計規準	日本建築学会 編	日本建築学会	5,040	日本建築学会, 書店
測量及び実習	実用測量	伊澤倫一郎	理工図書	4,095	ガイダンス時に案内
構造解析法	エクセル有限要素法入門 骨組構造解析編	山下四郎, 田中寿美	山海堂	3,200	書店
デザイン基礎 建築設計Ⅰ	建築デザインの基礎	本杉, 佐藤, 山中 他	彰国社	未定	ガイダンス時に案内

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建築法規Ⅰ	基本建築関係法令集 上巻 (法令編) 平成22年版	国土交通省住宅局建築指導課 建築技術者試験研究会	霞ヶ関出版	2,940	書店もしくは 指定された日に購入
建築法規Ⅱ	建築家の法律学入門 建築工事の瑕疵責任入門	大森文彦 著 大森文彦 著	彰国社	1,995	ガイダンス時に案内
			大成出版社	1,785	ガイダンス時に案内
建築計画Ⅰ・Ⅱ	建築計画を学ぶ 第3版 コンパクト建築設計資料集成	建築計画教材研究会 編 日本建築学会編	理工図書	3,675	ガイダンス時に案内
			丸善	5,040	ガイダンス時に案内
建築人間工学	建築設計資料集成 一人間 建築人間工学事典 人間工学からの 環境デザイン (仮題)	日本建築学会 日本建築学会	丸善	9,870	書店
			彰国社	3,780	書店
			彰国社	未定 (4月発表)	書店
設計計画Ⅰ	建築計画を学ぶ 設計方法Ⅴ 一設計方法と設計主体 デザインの鍵 建築デザインと環境計画	建築計画教材研究会 日本建築学会、建築計画委 員会、設計方法小委員会 池辺 陽 柏原士郎 編著	理工図書	3,675	書店
			彰国社	2,447	書店
			丸善	3,675	書店
			朝倉書店	5,040	書店
設計計画Ⅲ	場所の空間学 日本住宅の空間学 事例で読む現代集合住宅 のデザイン 日本の空間認識と景観構成 見沼田んぼの景観学	宇杉和夫 宇杉和夫 日本建築学会 宇杉和夫 宇杉和夫	古今書院	未定	ガイダンス時に案内
			理工図書	3,200	書店
			彰国社	2,730	書店
			古今書院	11,200	書店
ランドスケープデザイン	世界で一番やさしい 住宅用植栽 新・緑のデザイン図鑑	山崎誠子 山崎誠子	エクスナレッジ	2,940	書店
			エクスナレッジ	4,200	
建築史Ⅰ	日本建築図集 日本建築史序説	小林文次 他 太田博太郎	相模書房	2,625	書店
			彰国社	2,940	書店
建築史Ⅱ、Ⅲ	図説 近代建築の系譜 日本の近代建築(上、下) 図説 近代日本住宅史 建築モダニズム 近代和風を探る(上、下)	大川三雄 他 藤森照信 大川三雄 他 大川三雄 他 大川三雄 他	彰国社	3,360	建築史・建築論研究室 (ガイダンス時に案内)
			岩波新書	各651	書店
			鹿島出版会	3,360	書店
			エクスナレッジ	3,150	書店
建築史Ⅳ	東洋建築史図集 新建築学大系3 東洋建築史	日本建築学会 編	彰国社	3,255	書店
			彰国社	7,088	書店
都市計画Ⅰ、Ⅱ	都市の計画と設計 第2版 都市計画 第3版 初めて学ぶ都市計画	小嶋勝衛 監修 日笠 端、日端康雄 根上彰生 他	共立出版	3,675	書店
			共立出版	3,990	書店
			市ヶ谷出版	3,150	書店
都市デザイン	都市の計画と設計 第2版 まちづくりデザインの プロセス	小嶋勝衛 監修 日本建築学会 編	共立出版 丸善	3,675 1,995	書店 書店
不動産企画 住環境デザイン 不動産企画及び演習Ⅱ	都市・建築・不動産企画 開発マニュアル	エクスナレッジ編集部	エクスナレッジ	4,935	書店

# 平成22年度 短期大学部建設学科 履修要項

## はじめに

本短期大学部は必要単位を取得することによって卒業が認められるため、どの科目を選択するか（＝履修計画）については各自に自由が与えられるとともに責任が生じる。各々が必要な情報をしっかりと収集し、自分の将来設計を見据えて履修計画を練ることが肝要である。本頁の内容をよく理解し、「学園生活」「時間割」を用いて履修計画を立てること。また、学科で作成している「Navigation for Students 一新入生の手引き」も熟読すること。履修登録や学園生活全般にわたり不明なことがあれば、遠慮することなくクラス担任の諸先生（表1）に相談してほしい。

建設学科における卒業最低条件は、表2に示すように合計62単位（総合科目12単位以上、基礎教育科目7単位以上、専門教育科目36単位（必修:28単位、選択:8単位）以上、科目区分によらない任意の単位7単位以上）を取得しなければならない。これは、短期大学部の教育理念が完成教育を目指したものであり、諸君の勉学が偏ることなく建築全般にわたって学習できるようにしたものである。本稿では履修計画を立てる際に知っておいてほしい諸制度〔成績評価、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度、履修科目の登録単位数の上限、単位互換制度、科目等履修生制度、学芸員課程、履修コースの選定〕について概説し、さらに、建築デザインと建築実験の受講に際する注意を述べる。

## 成績表の表記について

GPA制度導入に伴い成績表および成績証明書の表記が変更される。成績表はS、A、B、C、D、N（S:90点以上、A:80点以上、B:70点以上、C:60点以上、D:59点以下、N:認定）と表記される（表3参照）。また、学期GPA、年間GPA、累積GPA（次節参照）が記載される。なお、成績証明書にはD（59点以下）は表記されず、GPAは

累積GPAのみの記載となる。

## GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度について

GPA制度は、各自の学修成果を客観的に数値で表したものであり、日頃の学修成果を確認することができる。計算方法は以下の通りである。

- ①各取得科目の成績評価に従い、グレード・ポイントを与える（表3参照）。
- ②各取得科目のグレード・ポイントに単位数を乗じてこれらの総和を取り、履修登録した科目の総単位数で割ったものをGPA（グレード・ポイント・アベレージ）とする（(1)式・表4参照）。表4の例では、 $GPA = 19/9 = 2.11$ となる。

表1 クラス担任

学年	氏名	研究室	電話番号(内線)
1年	酒匂 教明	船橋校舎 9号館 926・A	047-469-(5487)
	大塚 文和	船橋校舎 5号館 545・A	047-469-(5480)
2年	羽入 敏樹	船橋校舎 6号館 622・A	047-469-(5263)
	矢代 眞己	船橋校舎 5号館 546・A	047-469-(5819)

表2 卒業に必要な単位

科目区分	卒業要件単位数	
総合教育科目	12	
基礎教育科目	7	
専門教育科目	必修科目（17科目）	28
	選択科目	8
科目区分によらない任意の単位	7	
総計	62	

表3 成績表上の表記とグレード・ポイント

成績表上の表記	グレード・ポイント	
90点以上	S	4
80点以上	A	3
70点以上	B	2
60点以上	C	1
59点以下	D	0
認定	N	—

$$\text{GPA} = \frac{(\text{科目で得たグレード・ポイント} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録したすべての科目の総単位数}} \quad (1)$$

GPAには学期ごとに履修登録した科目と修得した科目から算出される学期GPAと現在までに履修登録した科目と修得した科目から算出される累積GPAがある。また、GPAの計算に含まれない科目は以下の通りである。

- 1) 履修中止を行った科目
- 2) 卒業に必要な総単位数62単位に含まれない単位（部外単位）
- 3) 理工学部の科目等履修生・教職課程科目の単位

現在、GPAは次に述べる履修科目の登録単位数の上限緩和にも関わるのでよく確認しておく必要がある。

---

## 履修科目の登録単位数の上限

学期ごとに履修登録できる単位数には上限が設けられており、1年次前学期は29単位、1年次後学期および2年次前・後学期は25単位となる。また、各年次のサマーセッション（夏季集中授業）とスプリングセッション（春季集中授業）では別枠で、それぞれ6単位を上限に履修登録することができる。

ただし、直前の学期GPA（グレード・ポイント・アベレージ）が2.5以上であり、かつ当該学期での修得単位数のうち卒業要件に参入することのできる単位数が21単位以上であれば、次学期の履修登録の上限は29単位となる。

4月当初の履修計画は、履修する科目の登録単位数の上限を超えないように、かつ所要の科目が履修できないということがないように気をつけること。なお、導入教育科目については、登録単位数としてカウントしない。

---

## 単位互換制度

本短期大学部生が日本大学理工学部の開設科目の一部を履修できるという制度である。履修に際しては、どの科目が開講されているか教務課もしくはクラス担任に開設科目を問い合わせ、受講する場合には、指定用紙に科目担当師の承諾印をもらい、教務課に提出する必要がある。なお、単位互換制度によって取得した単位を卒業に必要な単位として算入できるかについてはクラス担任に確認の上、履修登録すること。

---

## 科目等履修生制度

科目等履修生制度とは、大学入学資格を有する人が、大

学および短期大学の特定の授業科目を履修することができる制度である。そのため、科目等履修生制度を利用して他学部の講座を受講するためには、教務課またはクラス担任に開講科目、申請要領を確認し、指定期日までに受講申請をしなければならぬ。また受講に際し審査があり、受講許可された科目に対して、指定された授業料を納めることによって受講が可能となる。なお、教職課程科目もこの制度を利用して受講することになる。教職課程科目については別途ガイダンスがあるので、履修希望者は指定された期日に必ずガイダンスに参加すること。

---

## 学芸員課程

学芸員とは博物館法第4条第4項「博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これに関する事業についての専門的事項をつかさどる」と定められており、専門職員として博物館などの事業に携わるために必要な資格である。平成17年度より理工学部に学芸員課程が設置された。短期大学部生は理工学部に編入学が決定した者が受講可能となる。学芸員課程については年度初めに「学芸員ガイダンス」が開かれる。希望者はガイダンスに参加すること。

---

## 履修コースの選定

建設学科に設置されている建築エンジニアリングコース・建築デザインコース・福祉住環境コースの選定は2年次初めに自由に選択することができる。1年次に建築に関する基礎的な教育科目を履修し、自分が今後どのコースで主に学んでいきたいのか、どのコースに向いているのか、将来の進むべき道を見据えて選択すること。履修コースを選択することにより、おのずと選択必修科目が設定される（表5）。なお、所属コースによらず建設学科設置の専門科目は自由に履修することができる。

---

## 必修科目

必修科目は卒業するために必ず取得しなければならない科目のことである。また、1年次に設置してある科目は原則として1年次に受講すること。以下に、建築を学ぶにあたり根幹となる2つの科目群について説明する。

1. ベーシック建築デザイン、建築デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ

建築デザインは建築の総合的表現の修得を目的とするものであるため、長時間の実技的な修練が必要となる。

そのためには、各課題に対し所定の時間に確実に完了し、力量を積み重ねていかなければならない。受講に際し、専用の受講票をガイダンス時に配布するので、所定事項を記入し、顔写真を貼付して提出すること。建築デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲでは、課題出題日時・作品提出日時などが記載された「課題集」が配布されるので、すべての課題に対し担当師の指導を毎週受け、課題提出日に作品を完成させて提出しなければならない。また、これら科目は段階制をとっているため、建築デザインⅠを受講するためにはベーシック建築デザインの単位を、建築デザインⅡを受講するためにはベーシック建築デザイン、建築デザインⅠの単位を取得している必要がある。

## 2. 建築実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

学期はじめに各担当師により詳細な説明が行われる。実験は重複しないようにスケジュールが決定され、ホームルーム（1年次：1112教室、2年次：243教室）に掲示される。すべての実験を所定の日時に受講し、レポートを提出しなければならない。なお、レポートの受理の際には受領書を渡されるので、単位取得が確認できるまで保管しておくこと。やむを得ない理由などにより所定の日時に受講できない場合には、速やかに各実験担当師に申し出て指示を受けること。

表4 GPA算出の例

科目名	単位数	評価	グレード・ポイント	単位数×グレード・ポイント
国語表現法Ⅰ	1	A	3	3
英語講読Ⅰ	1	C	1	1
基礎物理学	2	B	2	4
基礎微積分	2	S	4	8
日本国憲法	2	D	0	0
スポーツⅠ	1	A	3	3
計	9			19

表5 履修コース別選択必修科目

コース別選択必修科目の修得単位数は、専門科目修得単位数に含まれます。他コースの科目でも履修できます。

コース	2年次				履修方法
	前学期	単位	後学期	単位	
建築エンジニアリング	応用力学Ⅱ	2	構造力学Ⅲ	2	左記科目より8単位以上を修得する
	応用力学演習Ⅱ	1	構造力学演習Ⅲ	1	
	構造力学演習Ⅱ	1	建築設備概論	2	
	環境工学Ⅱ	2	構造の計画と設計	2	
	鉄筋コンクリート構造	2	木構造及び鋼構造	2	
	土質及び基礎構造	2	耐震防災計画	2	
建築デザイン	建築史Ⅱ	2	デザイン論	2	左記科目より8単位以上を修得する
	建築計画Ⅱ	2	都市計画概論	2	
	構造デザイン	2	建築史Ⅰ*	2	
	建築メディア デザイン演習Ⅰ	1	建築メディア デザイン演習Ⅱ	1	
	ベーシック建築計画*	2	インテリア計画	2	
	建築ものづくり ワークショップⅠ**	1			
福祉住環境	建築ユニバーサル デザイン論	2	福祉住環境概論	2	左記科目より8単位以上を修得する
	環境工学Ⅱ	2	障害者支援論	2	
	建築ものづくり ワークショップⅡ*	2	建築設備概論	2	
	一般構法*	2	人間工学*	2	
	建築ものづくり ワークショップⅠ**	1	環境工学Ⅰ*	2	
			建築材料Ⅱ*	2	

\*サマーセッション科目 ※1年次設置科目

## 短期大学部建設学科 専門科目使用教科書並びに参考書

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建設学スタディ・スキルズ	知的な科学・技術文書の書き方—実験レポート作成から学術論文構築まで—演習 知的な科学技術文章の書き方	中島利勝, 塚本真也	コロナ社	1,995	書店
		塚本真也	コロナ社	1,890	書店
ベーシック建築デザイン	名作住宅で学ぶ建築製図	藤木庸介 編	学芸出版社	2,940	書店
ベーシック建築計画	初めて学ぶ建築計画	建築のテキスト編集委員会 編	学芸出版社	2,520	書店
建築計画Ⅰ	第2版 コンパクト建築設計資料集成〈住居〉	日本建築学会 編	丸善	6,510	書店
建築計画Ⅱ	第3版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会 編	丸善	5,040	書店
建築法規	2010年版 建築基準法令集	オーム社 編	オーム社	1,575	書店
都市計画概論	都市の計画と設計「第2版」	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,465	岡田研究室 (1333)
建築史Ⅰ	中世日本建築工匠史 日本建築史序説	浜島一成	相模書房	3,360	ガイダンス時に指示
		太田博太郎	彰国社	2,940	書店

そのためには、各課題に対し所定の時間に確実に完了し、力量を積み重ねていかなければならない。受講に際し、専用の受講票をガイダンス時に配布するので、所定事項を記入し、顔写真を貼付して提出すること。建築デザインⅠ・Ⅱ・Ⅲでは、課題出題日時・作品提出日時などが記載された「課題集」が配布されるので、すべての課題に対し担当師の指導を毎週受け、課題提出日に作品を完成させて提出しなければならない。また、これら科目は段階制をとっているため、建築デザインⅠを受講するためにはベーシック建築デザインの単位を、建築デザインⅡを受講するためにはベーシック建築デザイン、建築デザインⅠの単位を取得している必要がある。

## 2. 建築実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

学期はじめに各担当師により詳細な説明が行われる。実験は重複しないようにスケジュールが決定され、ホームルーム（1年次：1112教室、2年次：243教室）に掲示される。すべての実験を所定の日時に受講し、レポートを提出しなければならない。なお、レポートの受理の際には受領書を渡されるので、単位取得が確認できるまで保管しておくこと。やむを得ない理由などにより所定の日時に受講できない場合には、速やかに各実験担当師に申し出て指示を受けること。

表4 GPA算出の例

科目名	単位数	評価	グレード・ポイント	単位数×グレード・ポイント
国語表現法Ⅰ	1	A	3	3
英語講読Ⅰ	1	C	1	1
基礎物理学	2	B	2	4
基礎微積分	2	S	4	8
日本国憲法	2	D	0	0
スポーツⅠ	1	A	3	3
計	9			19

表5 履修コース別選択必修科目

コース別選択必修科目の修得単位数は、専門科目修得単位数に含まれます。他コースの科目でも履修できます。

コース	2年次				履修方法
	前学期	単位	後学期	単位	
建築エンジニアリング	応用力学Ⅱ	2	構造力学Ⅲ	2	左記科目より8単位以上を修得する
	応用力学演習Ⅱ	1	構造力学演習Ⅲ	1	
	構造力学演習Ⅱ	1	建築設備概論	2	
	環境工学Ⅱ	2	構造の計画と設計	2	
	鉄筋コンクリート構造	2	木構造及び鋼構造	2	
	土質及び基礎構造	2	耐震防災計画	2	
建築デザイン	建築史Ⅱ	2	デザイン論	2	左記科目より8単位以上を修得する
	建築計画Ⅱ	2	都市計画概論	2	
	構造デザイン	2	建築史Ⅰ*	2	
	建築メディア デザイン演習Ⅰ	1	建築メディア デザイン演習Ⅱ	1	
	ベーシック建築計画*	2	インテリア計画	2	
	建築ものづくり ワークショップⅠ**	1			
福祉住環境	建築ユニバーサル デザイン論	2	福祉住環境概論	2	左記科目より8単位以上を修得する
	環境工学Ⅱ	2	障害者支援論	2	
	建築ものづくり ワークショップⅡ*	2	建築設備概論	2	
	一般構法*	2	人間工学*	2	
	建築ものづくり ワークショップⅠ**	1	環境工学Ⅰ*	2	
			建築材料Ⅱ*	2	

\*サマーセッション科目 ※1年次設置科目

## 短期大学部建設学科 専門科目使用教科書並びに参考書

(教科書は太字, その他は主要参考書)

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建設学スタディ・スキルズ	知的な科学・技術文書の書き方—実験レポート作成から学術論文構築まで—演習 知的な科学技術文章の書き方	中島利勝, 塚本真也	コロナ社	1,995	書店
		塚本真也	コロナ社	1,890	書店
ベーシック建築デザイン	名作住宅で学ぶ建築製図	藤木庸介 編	学芸出版社	2,940	書店
ベーシック建築計画	初めて学ぶ建築計画	建築のテキスト編集委員会 編	学芸出版社	2,520	書店
建築計画Ⅰ	第2版 コンパクト建築設計資料集成〈住居〉	日本建築学会 編	丸善	6,510	書店
建築計画Ⅱ	第3版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会 編	丸善	5,040	書店
建築法規	2010年版 建築基準法令集	オーム社 編	オーム社	1,575	書店
都市計画概論	都市の計画と設計「第2版」	小嶋勝衛 監修	共立出版	3,465	岡田研究室 (1333)
建築史Ⅰ	中世日本建築工匠史 日本建築史序説	浜島一成	相模書房	3,360	ガイダンス時に指示
		太田博太郎	彰国社	2,940	書店

科目名	書名	編著者名・訳者名など	発行所名	定価(税込)	取扱所
建築史Ⅱ	西洋建築史図集 マトリクスで読む 20世紀の空間デザイン	日本建築学会 編	彰国社	2,625	田所研究室 (545B)
		矢代眞己, 田所辰之助, 濱崎良実	彰国社	2,625	田所研究室 (545B)
デザイン論	マトリクスで読む 20世紀の空間デザイン 図説 近代建築の系譜	矢代眞己, 田所辰之助, 濱崎良実	彰国社	2,625	田所研究室 (545B)
		大川三雄 他	彰国社	3,360	田所研究室 (545B)
空間デザイン	空間 構造 物語 建築構造のしくみ 図解事典 建築のしくみ	斎藤公男	彰国社	3,780	黒木研究室 (921B)
		川口 衛 他	彰国社	2,625	黒木研究室 (921B)
		建築図解事典編集委員会 編	彰国社	3,990	黒木研究室 (921B)
一般構法	建築学テキスト 建築構法 建築物のしくみを学ぶ	武田雄二 他	学芸出版社	3,360	書店
木質構法及び鋼構造	3階建てまでできる 一記入式2×4の構造設計入門 建築鉄骨構造	鈴木雄司	彰国社	3,150	ガイダンス時に指示
		松井千秋 編著	オーム社	3,360	
建築材料Ⅰ, Ⅱ	建築材料用教材 第3版	日本建築学会 編	日本建築学会	1,995	建築教室事務室(915)
応用力学Ⅰ, Ⅱ	建築材料力学 建築応用力学 改訂版	榎並 昭	彰国社	2,783	ガイダンス時に指示
		小野 薫, 加藤 渉	共立出版	2,415	ガイダンス時に指示
応用力学演習Ⅰ, Ⅱ	建築応用力学演習 応用力学演習問題解析法	加藤 渉, 榎並 昭	共立出版	2,310	ガイダンス時に指示
		西村敏雄	理工図書	4,935	ガイダンス時に指示
構造力学Ⅰ, Ⅱ	建築構造力学 (上巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に指示
構造力学演習Ⅰ, Ⅱ	建築構造力学演習 (上巻)	齋藤謙次	理工図書	1,837	ガイダンス時に指示
構造力学Ⅲ	建築構造力学 (下巻)	齋藤謙次	理工図書	2,467	ガイダンス時に指示
構造力学演習Ⅲ	建築構造力学演習 (下巻)	齋藤謙次	理工図書	1,837	ガイダンス時に指示
鉄筋コンクリート構造	コンクリート構造	本岡順二郎	彰国社	2,835	ガイダンス時に指示
鋼構造	建築鉄骨構造 第2版	松井千明	オーム社	3,360	黒木研究室 (921B)
土質力学及び基礎構造	建築基礎構造設計指針	日本建築学会 編	日本建築学会	5,670	書店
建築施工法	建築施工用教材	日本建築学会	日本建築学会	1,995	ガイダンス時に指示
ベーシック建築環境	環境教育用教材 学校のなかの地球	日本建築学会 編	日本建築学会	2,100	吉野研究室 (545A)
環境工学Ⅰ	最新 建築環境工学 建築環境工学用教材 環境編 住宅の環境設計データブック	田中俊六 他	井上書院	3,150	書店
		日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
		日本建築学会 編	丸善	3,150	書店
環境工学Ⅱ	建築音響と騒音防止計画 建築環境工学用教材 環境編	木村 翔	彰国社	3,570	羽入研究室 (622A)
		日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
建築設備概論	建築設備学教科書 新訂第二版 建築環境工学用教材 設備編	建築設備学教科書研究会	彰国社	3,780	書店
		日本建築学会 編	日本建築学会	1,937	書店
福祉住環境概論	新版 福祉住環境コーディネーター 検定試験2級公式テキスト Media5 Premier Royal 福祉住環境コーディネーター2・3級	東京商工会議所 編	東京商工会議所	2,625	ガイダンス時に指示
		徳田良英 監修・解説	メディアファイブ	13,440	
建築ユニバーサルデザイン論	福祉住環境コーディネーター 検定試験3級公式テキスト 福祉住環境コーディネーター 検定試験2級公式テキスト 子どもを事故と犯罪から 守る環境と地域づくり	東京商工会議所 編	東京商工会議所	2,650	書店
		東京商工会議所 編	東京商工会議所	5,040	書店
		野村 歡, 八藤後 猛 他	中央法規出版	2,310	書店
障害者支援論	福祉住環境コーディネーター 検定試験3級公式テキスト 福祉住環境コーディネーター 検定試験2級公式テキスト [図解]高齢者・障害者を考えた建築設計 障害者が居住する住宅の設計資料集	東京商工会議所 編	東京商工会議所	2,625	書店
		東京商工会議所 編	東京商工会議所	5,040	書店
		榎崎雄之	井上書院	3,150	書店
		国土交通省住宅局住宅総合整備課 監修 ぎょうせい		2,095	書店
人間工学	Ergonomics for beginners	J.Dul and B.Weerdmeester	Taylor&Francis		ガイダンス時に指示
情報処理	世界でいちばん簡単な Excel VBAのe本 最新版	道用大介	秀和システム	1,470	書店
建築メディアデザイン演習Ⅰ, Ⅱ	THE MAYA 5 perfect book	土田 仁	ピー・エヌ・ピー新社	5,250	ガイダンス時に指示
建築企画概論	都市・建築・不動産・企画開発マニュアル		エクスナレッジ	5,145	ガイダンス時に指示
海洋建築概論	海と海洋建築 海と科学 地球の海と気候	前田久明, 近藤健雄, 増田光一 柳 哲雄	成山堂 恒星社	4,830 1,995	大塚研究室 (545A) 書店
		寺本俊彦	御茶ノ水書房	840	書店
建築測量学	実用測量	伊澤倫一郎	理工図書	4,095	ガイダンス時に指示

# 平成21年度 各賞受賞者一覧

## 優等賞\*1 (学部・短期大学部)

野本 圭祐  
山中 友希  
森田 有貴

上石 豪  
小池 瑠美  
沖田雄一郎

久田 梨紗  
波入 慶春  
澤田 瑛那 (短期大学部)

## 齋藤賞\*2 (大学院)

- 〈修士論文〉 来栖 真弓 インパルス応答における時系列構造の特徴抽出による室内音場の拡散性評価  
指導：井上勝夫教授、羽入敏樹短大准教授
- 安達 一喜 非弾性ねじれ変形を考慮した偏心 RC 構造物の終局限界性能に関する研究  
指導：白井伸明教授

## 吉田鉄郎賞\*3 (大学院)

- 〈修士論文〉 伊奈 亮人 学習形態からみた特別教室の計画について 一施設一体型小中一貫校の建築計画に関する研究一  
指導：渡辺富雄准教授
- 〈修士設計〉 石ヶ谷望未 天竜区役所計画 一地域基幹産業としての林業振興を目的とした木造庁舎の設計一  
指導：佐藤光彦准教授

## 駿建賞\*4 (大学院)

- 〈修士論文〉 松田 貴 交通振動に対する住宅床の体感振動評価に関する研究  
指導：井上勝夫教授
- 吉田 直樹 建築に附置する自転車駐車場の算定法に関する研究  
一都市部における公共施設及び商業施設の事例研究を通して一  
指導：本杉省三教授
- 〈修士設計〉 井上 峰一 甲府城址図書館 一甲府城址を活用した山梨県立図書館の設計一  
指導：佐藤光彦准教授
- 田村 圭祐 八潮パークタウン住まい方再生計画  
指導：本杉省三教授
- 前坂 達男 小学校統廃合に伴うフリースクールの計画 一多摩市立豊ヶ丘小学校をケーススタディとして一  
指導：佐藤光彦准教授、山中新太郎助教
- 柳橋 啓一 新国立国会図書館 一西新宿三丁目再開発をとまなう国立国会図書館の設計一  
指導：佐藤光彦准教授

## 駿構賞\*5 (大学院)

- 〈修士論文〉 三上 淳治 複素固有値解析を介した DM 同調システムの最適設計法  
指導：古橋 剛准教授
- 國本 拓也 FEM による鉄骨ブレース補強後 RC 骨組の耐震性能評価および復元力特性のモデル化  
指導：白井伸明教授

## 桜建賞\*6 (学部・短期大学部)

- 〈卒業研究〉 小宮 圭太 ディンプルを有するジオデシックドームの構造特性に関する基礎的研究  
指導：岡田 章教授、宮里直也助教
- 郭 鈞桓・長谷川武男・廣谷 直也  
パンタグラフ機構による D.M. 同調システムに関する基礎的研究  
指導：古橋 剛准教授、秦 一平助教
- 上石 豪・浅野 克也  
継続的な運動トレーニングが脊髄損傷者の温熱環境適応能力に及ぼす影響に関する研究  
指導：蜂巣浩生専任講師
- 森田 有貴 公開空地の空間特性と利用実態に関する研究 一東京都千代田区を対象として一  
指導：本杉省三教授
- 又來 由佳 首都直下地震における帰宅困難者の避難場所に関する研究 一高層建築物の地下空間に着目して一  
指導：三橋博巳教授
- 〈卒業設計〉 池上 晃司 中野マニア 一商業空間の喧騒の中に浮遊する美術館一  
指導：佐藤光彦准教授
- 〈短期大学部 卒業制作〉 小林 聡 廃校になった木造小学校の耐震改修 一直して使い続ける繕の心一  
指導：酒匂教明短大専任講師
- 澤田 瑛那 Sanya Concert 一都市と育むこどもの居場所一  
指導：小石川正男短大教授

## 企画奨励賞\*7 (学部企画経営コース)

越川 傑・東原 一樹・水谷 亮  
ASAKUSA ENJISM

指導：企画経営コース専任教員

## 奨励賞\*8 (大学院・学部)

- 〈修士論文〉 松村 博志 会議場・オフィス・ホテルからなる超高層複合施設のエネルギー消費量に関する研究  
指導：池田耕一教授
- 牧 良太 DM一ばね直列システムを含む多質点系の縮約に関する基礎的研究  
指導：古橋 剛准教授
- 河合 晴香 懸造建築の類型と変遷に関する基礎的研究 一正堂・礼堂と懸造部の構成を中心として一  
指導：大川三雄教授、重枝 豊准教授、大山亜紀子助手
- 〈卒業設計〉 今野 和仁 Methodical Construction 一分断された都市の境界面に建つ商業建築の提案一  
指導：横河 健教授

## 駿優賞\*9 (学部)

中村 尚志 双堂形式の寺院の空間構成手法に関する一考察 —7世紀から11世紀の遺構を中心として—

指導：重枝 豊准教授

## 駿建コンペティション業績賞\*10 (大学院)

古澤 修一

今村研究室

## 桜工賞\*11 (大学院・学部・短期大学部)

〈大学院〉北 茂紀・篠崎 淳

「アーキテアリング・デザイン展 2008」(主催：日本建築学会)において学生幹事として貢献 岡田研究室

竹島 淳二・前坂 達男

「平成20年下田市景観ワークショップ」(主催：下田市 協力：静岡県 参加大学：京都大学、日本大学)に参加し、歴史的建物の活用デザインの提案を行った 山中研究室

小野 志門

「澄心寺庫裏デザイン・コンペ」にて入選、「愛知建築士学生コンペ」にて優秀賞受賞(瀬戸グランドキャニオン)、「第1回21世紀の小国の家滞在コンペティション」にて優秀賞受賞 佐藤光彦研究室

柳橋 啓一

「澄心寺庫裏デザイン・コンペ」にて入選、「JIA 東海支部設計競技」にて銅賞受賞、「第15回空間デザインコンペティション」にて佳作入賞 佐藤光彦研究室

〈学部〉野口 直希・野本 圭祐

建築学科卒業アルバム編集委員として貢献 岡田研究室

久保山 武

構造デザイン研究会部長として「建築展」の企画・運営の中心的役割を果たした 岡田研究室

長谷川友樹

世田谷区、千代田区の地域コミュニティや学校・学会の活動に関わり、こどもに関するさまざまな支援活動を行って高い評価を受けた 八藤後研究室

関根 拓也

理工学部柔道部主将として25名の部員をまとめ、全国大会で活躍した。2年生で全日本理工科学生柔道大会優勝(15年ぶり)、3年生で準優勝、4年生で準優勝であった。また、日本大学体育大会で創部以来2年連続優勝を果たした 都市計画研究室

〈短期大学部〉澤田 瑛那

日本大学創立120周年記念シンポジウムへの参加などの大学行事に貢献 短期大学部

早瀬 悠真

二年間クラス幹事としてクラスをまとめた功績 短期大学部

## 不動産科学専攻研究奨励賞\*12 (大学院不動産科学専攻)

上野美佳子

既存住宅市街地における計画協議による景観誘導に関する研究  
—神奈川県藤沢市鶴沼松が岡地区を事例として—

指導：根上彰生教授、川島和彦専任講師

山下 泉

海岸の多様な利用形態に伴う海岸保全区域の新たなあり方に関する研究  
—防護・環境・利用を考慮した海岸空間の整備・管理実態に着目して—

指導：横内憲久教授

## 日本環境管理学会・木村賞\*13 (大学院不動産科学専攻)

渡邊 明美

緑化施策における固定資産税等の軽減措置に関する研究 —軽減税額と維持管理費について—

指導：三橋博巳教授

## 小嶋賞\*14 (大学院不動産科学専攻)

植田 幸恵

地方都市における地域活性化事業の不動産証券化に関する研究

指導：三橋博巳教授

\*1 学部4年間および短期大学部2年間の学業成績が優秀であった学生に対し、日本大学より授与。

\*2 大学院博士前期課程の環境系および構造系分野の優れた研究論文に対し、齋藤賞基金に基づき、桜門建築会より授与。

本学の中興の祖と呼ぶべき齋藤謙次先生の業績を記念して設けられた。齋藤賞基金は、齋藤謙次先生の寄金を元に設立、佐藤稔雄、榎並昭各先生の寄金を追加。

\*3 大学院博士前期課程の設計・計画系分野の優れた研究論文および設計作品に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。

戦後復興期において本学の設計教育の礎を築かれた建築家であり、かつ日本の建築文化に関する優れた論考を残された吉田鉄郎先生の業績を記念して命名された。

駿建賞基金は、小林文次、宮川英二、近江栄、小合喬之助、木村翔、若色峰郎各先生の寄金による。

\*4 大学院博士前期課程の環境系および設計・計画系の優れた研究論文および設計作品に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。駿建賞基金については\*3参照。

\*5 大学院博士前期課程の構造系分野の優れた研究論文に対し、駿構賞基金に基づき、建築学科教室より授与。

駿構賞基金は、本岡順二郎、榎並昭各先生からの寄金を元に設立、構造系教授の寄金を追加。

\*6 学部の優れた卒業研究論文および卒業設計作品に対し、桜門建築会より授与。

\*7 企画経営コースの優れた卒業企画設計作品に対し、企画経営コースの設立に奔走した、元専任教員、元理工学部長・総長・理事長の小嶋勝衛先生の基金に基づき、建築学科教室より授与。

\*8 大学院博士前期課程の優れた研究論文および学部の優れた卒業設計作品に対し、理工学部校友会からの寄金に基づき、建築学科教室より授与。

\*9 学部の優れた卒業論文および卒業設計作品に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。

\*10 設計競技で優秀な成績を残した大学院博士前期課程の学生に対し、駿建賞基金に基づき、建築学科教室より授与。近江栄先生の発案により設立。駿建賞基金については\*3参照。

\*11 学業以外で社会的に活躍した学生に対し、理工学部校友会より授与。

\*12 大学院博士前期課程不動産科学専攻の優れた研究論文に対し、不動産科学専攻より授与。大学院不動産科学専攻専任教員、佐藤謙、浅香勝輔各先生の基金による。

\*13 大学院博士前期課程不動産科学専攻の優れた研究論文に対し、不動産科学専攻より授与。日本環境管理学会名誉会長木村宏先生の基金による。

\*14 大学院博士前期課程不動産科学専攻の優れた研究論文に対し、不動産科学専攻より授与。不動産科学専攻の創設に奔走した、元専任教員、元理工学部長・総長・理事長の小嶋勝衛先生の基金による。平成21年度新設。

# 平成21年度 博士論文 修士論文・設計 タイトル一覧

## 大学院博士後期課程

- 主査：井上勝夫教授，副査：池田耕一教授，伊藤洋一教授** ————— 建築学専攻  
阿部今日子 集合住宅の重量床衝撃音遮断性能に対する生活実感に関する研究
- 主査：井上勝夫教授，副査：三浦 光教授，安岡正人名誉教授(東京大学)** ————— 建築学専攻  
稲留 康一 RC造共同住宅における側路伝搬音を考慮した遮音性能予測手法に関する研究
- 主査：井上勝夫教授，副査：吉野泰子(短大)教授，川西利昌教授，張 晴原教授(筑波技術大学)** ————— 建築学専攻  
王 岩 居住環境測定法の適用性の検証とチベット住宅における性能実態調査に関する研究
- 主査：安達俊夫教授，副査：半貫敏夫教授，白井申明教授** ————— 建築学専攻  
佐藤 隆 鋼管テーパ杭を用いた小規模建築物の基礎工法に関する実験的研究
- 主査：半貫敏夫教授，副査：秋山 宏名誉教授(東京大学)，白井申明教授，岡田 章教授** ————— 建築学専攻  
柳田 佳伸 柱脚挙動を考慮した鋼構造梁降伏型低層剛接骨組の地震時挙動
- 主査：半貫敏夫教授，副査：秋山 宏名誉教授(東京大学)，中村義隆教授(研究所)，岡田 章教授** ————— 建築学専攻  
新井佑一郎 鋼素材の破壊を考慮した鋼構造部材の耐力・塑性変形能力に関する実験的研究

## 大学院博士前期課程

- 池田耕一教授** ————— 建築学専攻  
松村 博志 会議場・オフィス・ホテルからなる超高層複合施設のエネルギー消費量に関する研究
- 井上勝夫教授** ————— 建築学専攻  
高橋 菜美 住宅における音環境トラブルの発生原因と対策方法に関する研究  
松田 貴弘 交通振動に対する住宅床の体感振動評価に関する研究  
松永 智弘 地表面変化による公園緑地の暑熱緩和効果に関する実験的研究
- 井上勝夫教授・橋本 修准教授** ————— 建築学専攻  
土屋美寿恵 ノイズ・残響下における盲導鈴の音量についての検討 —視覚障害者による鉄道駅内の盲導鈴の利用について—  
渡邊 佳英 明瞭度指標を用いた室空間の音響設計手法に関する基礎的検討
- 井上勝夫教授・吉野泰子(短大)教授** ————— 建築学専攻  
木下 亮佑 密集地に建つ都市型住宅の主開口方位とプランニングが通風環境に及ぼす影響  
津幡 あき 住宅改修に向けた居住者意識とサニタリー空間における温熱環境指標の提案
- 井上勝夫教授・羽入敏樹(短大)准教授** ————— 建築学専攻  
来栖 真弓 インパルス応答における時系列構造の特徴抽出による室内音場の拡散性評価
- 安達俊夫教授** ————— 建築学専攻  
軽部 宏紀 エネルギーの釣合いに基づく砂地盤の液状化に伴う沈下予測に関する研究
- 岡田 章教授** ————— 建築学専攻  
梅原 智洋 ETFEフィルムを用いたばねストラット式張力膜構造の構造挙動に関する研究  
—二軸引張特性と応力弛緩を考慮した数値解析手法の提案と妥当性の検証—  
落合 涼子 スtring式骨組架構(SKELSION)の保有水平耐力に関する基礎的研究  
—崩壊メカニズムとStringのモデル化の検討—  
北 茂紀 木造格子耐力壁を用いた簡易耐震シェルターの開発 —実験及び数値解析による破壊モードと変形性能の把握—  
篠崎 淳 ハイブリッド・ガラス・チューブの構造部材への適用性に関する基礎的研究  
橋本 明子 擬似HP曲面の基本的力学特性に関する研究 —曲面形状が荷重伝達性能に及ぼす影響—  
福田 隆徳 ホルン型張力膜構造の風荷重に関する基礎的研究 —レイノルズ数と気流の影響の把握と設計用風荷重の提案—  
水野 佑理 キューブ型張弦シザース構造の構造特性に関する基礎的研究  
—施工時張力のばらつきを考慮した強風時の終局耐力評価—  
山田 達也 ケーブルネット構造の地震時挙動に関する基礎的研究 —基本振動特性及び地震時応答特性の把握—

<b>白井伸明教授</b>		建築学専攻
安達 一喜	非弾性ねじれ変形を考慮した偏心 RC 構造物の終局限界性能に関する研究	
尾崎 英介	画像計測に基づく RC 造柱梁接合部の損傷および残存耐震性能評価 ー偏心をパラメータとした柱梁接合部の繰返し載荷実験ー	
國本 拓也	FEM による鉄骨ブレース補強後 RC 骨組の耐震性能評価および復元力特性のモデル化	
<b>中田善久准教授</b>		建築学専攻
久保田英樹	吸水性状に基づく高強度コンクリートの品質評価に関する研究	
坂本 亮	コンクリートにおける含水率の挙動が乾燥収縮率に及ぼす影響	
田村 裕介	構成材料の割合を変えた高強度コンクリートの性状に関する研究	
<b>半貫敏夫教授</b>		建築学専攻
小中 孔明	鋼構造筋違付多層骨組における筋違率と強震時応答特性の関連性	
佐藤 泰春	南極昭和基地に建つ大規模建築物周りのスノウドリフトコントロールに関する研究	
<b>古橋 剛准教授</b>		建築学専攻
大野 勝亮	応答制御のための性能設計図表による耐久性評価に関する研究	
牧 良太	DMーばね直列システムを含む多質点系の縮約に関する基礎的研究	
三上 淳治	複素固有値解析を介した DM 同調システムの最適設計法	
<b>今村雅樹教授</b>		建築学専攻
岩井 友佑	筑波大学東京キャンパス再生計画 ー文京区教育の森公園に隣接し社会に開かれた大学施設の設計ー	
倉又 式子	港区芝浦地区駅前再整備における都市型多世代交流施設の設計	
古澤 修一	無堤地区における二子玉川南地区再生計画 ー河川環境再生及び河川敷における住宅群再生計画ー	
松岡 伸明	東急目黒線跡地整備と品川区立荏原第六中学校の建替え計画 ー武蔵小山緑道と一体となったラーニングセンターとしての中学校の設計ー	
松田 隆志	高知市立総合科学図書館の設計 ー市民のための教育文化活動の拠点施設の提案ー	
松本 隆	石川県輪島市市街地観光再活性化計画 ー市街地観光再活性化の中心となる交通・観光拠点施設の設計ー	
丸山 和哉	都心部における少人数教育を活かした小学校の設計 ー八重洲地区城東小学校の建替え計画ー	
<b>横河 健教授</b>		建築学専攻
秋月 孝文	下北沢市街劇場構想 ー「劇場への道すがら」から始まる街づくりー	
居波 宏和	港区虎ノ門における谷戸の街並み再生計画 ー超高層建築と調和する街並みモデルの提案ー	
田尾 繁太	山口県下関市のウォーターフロント計画に伴う観光・物流及び交通拠点施設の設計 ー海峡都市における景観特性を利用した場の創出を目指してー	
<b>横河 健教授・山崎誠子助教</b>		建築学専攻
重矢 浩志	大田区町工場街におけるリバーウォーク見本市の構想 ー産業促進と観光地とコミュニティの機能をもった川縁の見本市ー	
石山 真子	新たな公共空間の創出におけるランドスケープの役割 ー調布市における大規模未利用地を利用した生涯学習施設群を内包した公園ー	
田中 陽	都市開発諸制度活用プロジェクトの屋外空間における植栽計画に関する研究 ー東京都港区を事例としてー	
<b>佐藤光彦准教授</b>		建築学専攻
石ヶ谷望未	天竜区役所計画 ー地域基幹産業としての林業振興を目的とした木造庁舎の設計ー	
井上 峰一	甲府城址図書館 ー甲府城址を活用した山梨県立図書館の設計ー	
小野 志門	不忍池霧の葬斎場 ー都市公園を利用した火葬施設及び墓地の設計ー	
橋 知左	地域活性化を目指した浅草橋問屋街再生計画 ー復興小学校跡地を利用したものづくり工房施設の設計ー	
土井 健嗣	目白小学校建替え計画 ー地域活動拠点としての小学校の設計ー	
中川 知英	中央区湊沿岸再生計画 ー隅田川堤防における居住環境の設計ー	
任 杰	池袋国際プラザ ー池袋駅北口エリアにおける中国文化共生街区の計画ー	
柳橋 啓一	新国立国会図書館 ー西新宿三丁目再開発をともなう国立国会図書館の設計ー	
<b>佐藤光彦准教授・山中新太郎助教</b>		建築学専攻
竹島 淳二	隅田川沿いにおける東京大空襲祈念施設及び平和記念公園の設計	
前坂 達男	小学校統廃合に伴うフリースクールの計画 ー多摩市立豊ヶ丘小学校をケーススタディとしてー	
五百蔵純一	高知市の日曜市における道路空間の仮設利用に関する研究	
<b>本杉省三教授</b>		建築学専攻
岩田 敏幸	東京臨海部における都営葬祭場の設計 ー海に浮かぶ吊いの森ー	
大西 健太	日活撮影所の再編 ー映画文化振興基地ー	

西郷 信彦 大井競馬場再生計画 ―レジャーと融合した地方競馬場―  
田村 圭祐 八潮パークタウン住まい方再生計画  
柴多 悠 開口部と通路が群集歩行に与える影響に関する研究  
寺山 靖彦 大衆演劇劇場の空間構成に関する基礎的考察  
吉田 直樹 建築に附置する自転車駐車場の算定法に関する研究 ―都市部における公共施設及び商業施設の事例研究を通して―

渡辺富雄准教授 \_\_\_\_\_ 建築学専攻  
伊奈 亮人 学習形態からみた特別教室の計画について ―施設一体型小中一貫校の建築計画に関する研究―

今村雅樹教授・八藤後 猛専任講師 \_\_\_\_\_ 建築学専攻  
井出 道章 入居者の身体状況・居住志向による高齢者専用賃貸住宅の計画に関する研究

井上勝夫教授・八藤後 猛専任講師 \_\_\_\_\_ 建築学専攻  
平岡 舞 住宅内における子どもの階段事故の現状と安全確保に関する研究

大川三雄教授 \_\_\_\_\_ 建築学専攻  
島田 佳織 建築家ブルーノ・タウトの「色彩建築」の実践とその特徴に関する研究  
土屋 沙希 アントニン・レーモンドのRC造建築にみる特徴とその評価

大川三雄教授・重枝 豊准教授・田所辰之助(短大)准教授 \_\_\_\_\_ 建築学専攻  
荒井 一樹 建築家・広瀬謙二の作品にみる建築的主題と手法に関する研究  
―SHシリーズと木造作品におけるB.Cに対する取り組みを中心として―

大川三雄教授・重枝 豊准教授・大山亜紀子助手 \_\_\_\_\_ 建築学専攻  
勝原 基貴 クメール建築における参道整備の手法と展開に関する基礎的研究 ―テラスと欄干の種類と計画手法の変化を中心として―  
河合 晴香 懸造建築の類型と変遷に関する基礎的研究 ―正堂・礼堂と懸造部の構成を中心として―  
佐藤 央 方三間仏堂の特質と展開に関する基礎的研究 ―阿弥陀堂、薬師堂、観音堂の平面と架構形式の分析を中心として―

根上彰生教授 \_\_\_\_\_ 建築学専攻  
上杉麻里子 自治体間における地域施設の相互利用に関する研究  
木村麻里子 文学作品に描かれたまちのまちづくりの方向性に関する研究 ―宮沢賢治作品に描かれた岩手県花巻市を事例として―

根上彰生教授・川島和彦専任講師 \_\_\_\_\_ 建築学専攻  
山田 泰宏 商業地のタウンマネジメントにおける景観誘導方策に関する研究 ―屋外広告物による景観イメージの分析を通じて―

三橋博巳教授 \_\_\_\_\_ 不動産科学専攻  
植田 幸恵 地方都市における地域活性化事業の不動産証券化に関する研究  
渡邊 明美 緑化施策における固定資産税等の軽減措置に関する研究 ―軽減税額と維持管理費について―

根上彰生教授 \_\_\_\_\_ 不動産科学専攻  
廣田 衣束 ボランティア団体を活用した緑地の保全管理に関する研究 ―川崎市を事例として―  
山崎 正樹 都心部における公開空地等と都市公園の連携した計画・整備方策に関する研究

宇於崎勝也准教授 \_\_\_\_\_ 不動産科学専攻  
磯貝 梨恵 商店街におけるバリアフリー化の取り組みに関する研究  
―郡山市中央商店街におけるストリートファニチャーを事例として―  
弘木 クワカク タイ・バンコクにおける中心業務地区の実態と今後の方向性に関する研究

根上彰生教授・川島和彦専任講師 \_\_\_\_\_ 不動産科学専攻  
上野美佳子 既成住宅市街地における計画協議による景観誘導に関する研究 ―神奈川県藤沢市鶴沼松が岡地区を事例として―  
北山 社 過疎地域における定住促進のための空き家活用に関する研究 ―島根県江津市における公民連携による取り組みに着目して―  
佐藤 宣章 重要伝統的建造物群保存地区とその周辺地域における地域活性化方策に関する研究 ―空間・機能・回遊性に着目して―  
柳澤 優行 観光客誘致による建築物の修景方策に関する研究 ―福島県会津若松市を事例として―

横内憲久教授 \_\_\_\_\_ 不動産科学専攻  
齋藤 淳 都市部におけるエリアマネジメントの組織形態に関する研究  
塩原 大亮 都市内における水上交通の新たな意義と成立要件に関する研究 ―京浜港の水上交通の運用実態を通じて―  
山下 泉 海岸の多様な利用形態に伴う海岸保全区域の新たなあり方に関する研究  
―防護・環境・利用を考慮した海岸空間の整備・管理実態に着目して―

# 平成21年度 卒業研究・設計 タイトル一覧

## 学部

### 池田耕一教授

- 首藤 宏太 建築材料からのホルムアルデヒド放散清浄に関する研究
- 谷口 博和 建築材料の室内湿度制御能力の評価方法に関する研究
- 藤井 隆介 暑熱環境下での水分補給の違いが人体反応に及ぼす影響 その1 生理反応について
- 桂 正志 暑熱環境下での水分補給の違いが人体反応に及ぼす影響 その2 心理反応について
- 中里 暢尋 暑熱環境下における水分補給の違いが視覚反応速度に及ぼす影響
- 太田 晃平・古徳 勇樹  
調湿建材及び一般家庭用建材に及ぼす真菌の発生状況とMVOCに関する実験
- 奥田 崇人 オフィス、会議室、ホテルからなる超高層複合施設のエネルギー消費量に関する研究  
(その1) 建物概要と中間期実績
- 澤田 圭司 オフィス、会議室、ホテルからなる超高層複合施設のエネルギー消費量に関する研究  
(その2) 夏期実績
- 西村 晃 建築物の環境衛生と省エネルギーのあり方に関する研究
- 中澤 和也 建物の用途別維持管理実態に関する研究



### 井上勝夫教授・富田隆太助教

- 青山 一也・齋藤菜織子  
床振動を対象とした振動感覚評価に関する検討
- 稲垣 僚二・木下 尚基  
乾式二重床における重量床衝撃音対策に関する検討
- 小幡 哲朗・菅原 広大・人見 翔太  
都会の温熱環境・街並み景観に関する実験的研究
- 小池 瑠美・杉山 耕平  
交通振動に対する振動感覚評価に関する基礎的研究
- 小泉絵里奈・光永 浩明  
折れ曲がり廊下における歩行者の曲がりやすさと角の隅切処理に関する検討
- 阪本 一生・佐藤香菜子  
住宅床における高齢者と成人の姿勢別の快適性に関する基礎的研究
- 長岡 亨・鈴木 綾乃  
保育所の音環境に関する実態調査
- 宮松 優行・村松 文美  
音環境問題における建築性能面からの分析



### 橋本 修准教授

- 岩井 雅行 教室空間における拡声時の音声伝達性能の向上に寄与する要因の検討
- 大出 桃子・関 英里香・正井 芳奈  
駅構内歩行時における音環境・光環境がもたらす感覚的要素と物理的要因についての検討  
—ロービジョン者による感覚サインの利用に関する基礎的研究—
- 岡田 芳明 音声伝達指標を用いた建築空間の基本形状の変化と明瞭性評価との関係についての考察
- 口田 鷹史 鉄道駅改札口に設置されている盲導鈴の知覚に関する検討
- 菊田 敬・小山 卓真  
建築空間内での対面会話時における音環境要因の検討



- 村川 和隆 小学校における隣接空間の天井照明が相互の空間に与える影響  
 吉田 一哉 騒音・残響下での盲導鈴の最適音量と方向知覚に関する基礎的検討

### 蜂巢浩生専任講師

- 上石 豪・浅野 克也 継続的な運動トレーニングが脊髄損傷者の温熱環境適応能力に及ぼす影響に関する研究  
 安藤 遼・沖田雄一郎 実験動物飼育室環境改善へのエンリッチメント器材の利用に向けて  
 羽場 大祐 脊髄損傷者の温熱環境に関する研究 ―ある高位頸髄損傷者の体調管理記録の分析から―



### 安達俊夫教授・山田雅一助教

- 朝枝 亮太 液化化による地盤の沈下予測に関する実験的研究  
 ―累積塑性ひずみエネルギーと体積ひずみの関係―  
 伊東 直也 粘性土改良土の一軸圧縮強度の評価方法に関する実験的研究  
 上田 達也 締固め改良地盤における外周部の改良仕様に関する研究  
 小川 雅信・原川 哲 安定処理土の弾性波速度測定システムの開発  
 金丸 廣子 既存基礎構造の再利用事例に関する調査研究  
 小暮 広樹・前島 進牙 砂質土地盤における山留壁に作用する土圧挙動に関する実験的研究  
 ―相対密度の差異および主動状態における繰返し挙動に対する検討―  
 高津 逸美 ベンダーエレメントを装着した中空ねじりせん断試験装置の開発  
 長尾 太樹 繰返し挙動における砂の応力―ひずみ関係のモデル化に関する研究  
 野口 健太 首都圏における擁壁の実態調査 ―擁壁の危険度評価と築年数の関係について―  
 波入 慶春 洪積砂の強度定数の評価法に関する研究 ―地盤調査資料に基づく調査―  
 前原 一輝 ベンダーエレメントによる砂のせん断剛性の評価 ―密度と応力異方性の影響―



### 岡田 章教授・宮里直也助教

- 赤星 博仁 小規模模型を用いたストリング式骨組架構（SKELSION）の基礎的研究  
 ―水平荷重におけるテンション材の力学的効果―  
 安部 信彦 Tensegric Truss TypeI Membrane HP Arch の実験的研究  
 安藤さとみ 簡易耐震シェルター（品川シェルター）の開発 ―品川シェルターのパンフレットに関する研究―  
 鍋木 雄太 HP 形状の膜を有する展開式テンセグリティの基本的構造特性に関する研究  
 河田 龍一 斜方切頂二十・十二面体の特性を用いた展開式ドームの提案  
 河本 哲兵 複層式立体トラスドームの座屈現象に関する基礎的研究  
 久保山 武 日本建築における木構法の継手とケーブルのPS 導入による ―ハイブリット構造に関する基礎的研究―  
 小宮 圭太 ディンプルを有するジオデシックドームの構造特性に関する基礎的研究  
 菅生 寛之 ストラット式張力膜構造に関する実験的研究 ―応力弛緩後における風荷重時の膜面挙動について―  
 炭崎 道生 ガラス構造化に関する実験的研究 ―アクリルとガラスの組み合わせ構造システムの有効性について―  
 野口 直希 FRP の建築構造部材への適用に関する基礎的研究  
 日暮 達也 ビーム式空気膜構造についての基礎的研究  
 松田 歩弓 仮設シェルターの分析と今後の展望について  
 寺田 直人 木造格子耐力壁を用いた簡易耐震シェルターの補強方法について  
 野本 圭祐 溝型ガラス（PROFILIT）の構造部材への適用性に関する実験的研究



## 白井伸明教授・田嶋和樹助教

- 川村 豪佑 3次元FEM解析による仮想偏心RC造1層骨組みの弾塑性ねじれ挙動の評価  
(その1) 仮想骨組みの構築と3次元FEM解析結果
- 斎藤 靖典 3次元FEM解析による仮想偏心RC造1層骨組みの弾塑性ねじれ挙動の評価  
(その2) 復元力特性の仮定とFEM解析との比較
- 阿賀 翔 3次元FEM解析による仮想偏心RC造1層骨組みの弾塑性ねじれ挙動の評価  
(その3) 弾塑性ねじれ挙動の評価
- 土橋 弘晃 デジタル画像に基づくRC造柱梁接合部の損傷評価に関する研究  
(その1) 実験概要および実験結果
- 吉田 昌敏 デジタル画像に基づくRC造柱梁接合部の損傷評価に関する研究  
(その2) 残留ひび割れ幅による残留変形の評価
- 西尾 淳 フラクタル次元解析を用いたRC柱梁接合部の損傷評価に関する研究
- 河合慎太郎 せん断破壊するRC造柱の非弾性挙動に関する検討 改良ファイバーモデルを用いた非線形解析
- 横田 純一 既存鉄筋コンクリート造学校建築及び集合住宅の耐震性能に関する研究  
(その1) 現状認識及び予測範囲の提案)
- 橋本 拓 既存鉄筋コンクリート造学校建築及び集合住宅の耐震性能に関する研究  
(その1) ピロティ階が耐震診断に及ぼす影響とピロティ階 $\alpha$ の提案)
- 谷山 英正 鉄筋コンクリート造雑壁の構造スリットに関する文献調査
- 坂口 亮 耐震補強接合部の復元力特性推定モデルに関する検討
- 桑原 雅人 接着工法で補強されたRCフレームの復元力特性のモデル化
- 伊東 大地 3次元FEMによるコンクリートグラウト接合面の性能評価



## 中田善久准教授

- 栗田 雅彦 養生方法が異なるコンクリートの含水率の挙動が乾燥収縮率に及ぼす影響
- 伊藤 悠作 高強度コンクリートを対象とした金属系あと施工アンカーの引張特性に関する研究
- 坂本 英之 締締め作業中の棒形振動機と鉄筋の接触によるコンクリートの付着性状に及ぼす影響
- 佐野 順也 吸水性状に基づく高強度コンクリートの品質評価に関する研究  
一試験体の条件が異なる場合の吸水性状と乾燥収縮に関する検討一
- 原田 典明 異なるせき板を用いた打放しコンクリート仕上げの表面性状に関する研究
- 三宅美奈子 各種骨材露出仕上げによるコンクリートの表面性状の違いについて
- 村山 岳 高性能AE減水剤の再添加がコンクリートの品質に及ぼす影響に関する研究
- 峯岸 祐輝 水平換算距離の長さの違いによるコンクリートの圧力損失に関する文献的検討



## 半貫敏夫教授

- 小野 泰弘・高橋 貴大 倒壊住宅の廃材を利用した応急極小住宅の開発研究
- 原田 亮 引張筋違による混合効果が鋼構造筋違付単層骨組の変形応答に及ぼす影響
- 狩野 公則 鋼材検査証明書を用いたSS400材の鋼材物性調査
- 赤羽 正寛 素材特性の異なる鋼材を用いた柱梁接合部の延性破壊一脆性破壊遷移実験
- 楊 云枝 Vノッチ引張試験と実大実験との対応性
- 吉良 怜子 列柱式高床模型周囲の吹きだまりに関する研究 その1) 柱本数、柱形状が吹きだまりに与える影響
- 中指 達也 列柱式高床模型周囲の吹きだまりに関する研究 その2) 高床通路の形状が吹きだまりに与える影響
- 白石 慶斗 南極昭和基地に新設予定の自然エネルギー棟の吹きだまりに関する研究  
その1) 吹雪風洞実験による吹きだまりの観察
- 石川 奨 南極昭和基地に新設予定の自然エネルギー棟の吹きだまりに関する研究  
その2) 風洞実験による風速・風向と吹きだまり性状の関係



## 古橋 剛准教授・秦 一平助教

---

- 谷口 勇義 アンケートによる戸建免震住宅の普及に関する調査研究  
戸建免震住宅の現状と営業担当者の販売意識
- 郭 鈞桓 パンタグラフ機構による D.M. 同調システムに関する基礎的研究  
その1 パンタグラフ機構の概要
- 廣谷 直也 パンタグラフ機構による D.M. 同調システムに関する基礎的研究  
その2 パンタグラフ式 D.M. 同調システムを用いた最適設計
- 長谷川武男 パンタグラフ機構による D.M. 同調システムに関する基礎的研究  
その3 2層せん断モデルの振動実験



## 三橋博巳教授

---

- 池田 哲哉 公開空地の利用実態に関する研究 ―オフィスビルに着目して―
- 高木 隼 下北沢再開発における問題点 ―住民の意識に着目して―
- 中里 隼・三井洋太郎  
集合住宅における修繕積立金に関する調査研究
- 藤澤一太郎 高速道路無料化に伴う大都市間交通分担率の変化に関する研究 ―ロジットモデルを用いた交通量予測―
- 又來 由佳 首都直下地震における帰宅困難者の避難場所に関する研究 ―高層建築物の地下空間に着目して―
- 渡邊 千夏 防災の知識に関する調査 ―防災対応能力向上を図るために―
- 和田 儀孝 太陽光発電システムの導入に関する研究 ―日本と諸外国との比較―
- 伊藤 優紀・緒方 大亮  
大学と地域連携に関する地域力向上の調査研究 ―新潟県十日町市雪ふる里村を事例にして―
- 柿崎 大輔 雑居ビル火災に関する研究



## 今村雅樹教授

---

〈卒業設計〉

- 赤瀬玲央奈 skirt ―ペンシルビルの再構成による開放型商業建築の提案―
- 赤津 成紀 境界面の＋ー ―キャットストリートにおける住宅と店舗の設計―
- 井沢 享 街の風景をつなぐ ―地方都市における建築の風景との関わり方の提案―
- 小佐野菜々 Art information ―情報発信としての機能を強化した美術館の提案―
- 駒井 友香 森に暮らす ―公社中野駅前住宅再生計画―
- 高野真由美 ポートナイトシアター ―横浜の河のあるべき姿を考える―
- 高橋 功一 シモキタ体験 ―再開発に伴う駅ビルに対するカウンタープロジェクト―
- 中邑 真路 都市裏共有集合住宅 ―負の敷地背景を生かした住居とフリースクールの計画―
- 根本 亮佑 CONNECTING STREET ―原宿におけるストリート性を挿入する商業施設―
- 茂木 香織 いつか僕らは輪を描く ―コンパクトシティの図書館開放計画―
- 保坂 裕梨 引き込む建築 ―問屋に出来た大きなオープンスペース―



## 横河 健教授

---

〈卒業設計〉

- 賀野のどか 子ども1人の力
- 岸田 一輝 集まれ！日大！ ―大規模建築と都市的周辺環境の相互関係に着目した創造都市的キャンパスコア
- 黒田 紗矢 「繋がる空間、重なる風景」桃丘小学校跡地計画 ―保育園を核とした複合施設―
- 今野 和仁 Methodical Construction ―分断された都市の境界面に建つ商業建築の提案―



神保 寿弥	飛団地
瀬戸 基聡	交錯する都市, 都市から建築へ, 建築は交錯する
太期 翔	Hibiya Underground
唐司 昂典	駅前図書館停留場
中村 隆志	ゴミと街の狭間で… —ゴミから生み出す還元プログラムを用いた地域還元施設の提案—
福島慶一郎	傾斜地に建つ保育園と子育て支援施設

## 山崎誠子助教

穴倉 翠	街に調和するケヤキ並木のかたちを導く
柿沼香奈慧	銀座の街路樹の現状と今後の課題
平川みなみ	都市公園のドッグランの調査・研究
洪 淑婷	町並み環境整備事業における地域再生に関する比較研究
松田 悠吾	水族館の屋外空間の利用についての調査・研究
長野 雄太	東京都立の霊園の歴史・手法・デザインの研究—故井下清氏を通して—
〈卒業設計〉	
松岡亜也加	高架下町
池上 裕喜	傾斜地に建つ公園と高齢者ケア施設 —中目黒の特徴的地形を利用して—
山野井麻衣	ちびっこフィールド世田谷—幼児と子育てママのための公園と施設



## 佐藤光彦准教授

〈卒業設計〉	
浅野 雄一	O.H.S.K —NHK 埼玉放送局移転計画—
池上 晃司	中野マニア —商業空間の喧騒の中に浮遊する美術館—
新城 雄史	Algorithmic Slab —都市環境がつくり出した形態—
鈴木康二郎	Shiwa —恵比寿東口における飲食を中心とする複合施設の計画—
高橋 雄也	NEW COMMONS —新たな共同体—
田中麻未也	空白と272本の建築
玉川菜々子	地形を架ける —多摩丘陵での小学校跡地における, 地形構築による町再生の提案—
山中 友希	まざり合う空間 —人と生活とモノと—
横山 勇貴	網層建築 —関係性を紡ぐ建築—



## 山中新太郎助教

石井 尚子	地方都市における既存建物を利用した地域再生に関する研究 —大都市の事例との比較を通して—
西島 慧子	銭湯建築の平面形態に関する研究 —横浜の銭湯を事例として—
〈卒業設計〉	
磯崎 達也	21世紀都市型大学 —御茶ノ水における拠点施設としての大学キャンパスの設計—
河野 麻理	都橋商店街再生計画 —流形の商店街—
鈴木 大志	五反田駅機能拡張計画
永嶋 竜一	transform proportion
早川 和也	高架下再生計画 —めくられた高架下—
三平 奏子	SANCHA 型
山岡亜由美	Park Library 大谷口給水塔跡地における図書館と給水所の設計計画



## 本杉省三教授



- 鎌田 良 廃校利用にみるコミュニティの形成についての研究 —東京都 23 区を事例として—
- 本多 恵太 駅施設におけるサイン計画
- 森田 有貴 公開空地の空間特性と利用実態に関する研究 —東京都千代田区を対象として—
- 一木 拓太 図書館利用者の行為と居場所に関する研究 —北区立中央図書館を事例として—
- 平 亮太郎 創造都市政策の視点から見た豊島区の文化・芸術活動の計画に関する研究  
(卒業設計)
- 石垣 百合 豊島区廃校跡地の再編 —老人ホーム、生涯学習センター、幼稚園を含む地域密着型複合施設の設計—
- 今村 英里 中野区三丁目笑劇場計画
- 宇田川まりか 東横線廃線跡地における芸術文化支援施設の提案
- 仲間 美紀 商店街の空き店舗の現状調査と再利用計画

## 佐藤慎也助教



- 荒木 由衣 学校建築のコンバージョンに関する研究 体験型宿泊施設の活用状況と地域の関係について
- 北 真義 グラフィティが与える心理的变化に関する研究 アンケート調査を通して
- 杉田 達紀 建築作品における照明デザイナー起用に関する研究 「新建築」掲載作品を通して
- 鈴木 直樹 商空間における色彩計画に関する研究 「商店建築」掲載作品を通して
- 高木 彩名 ランドアートの展示空間に関する研究 1960-80 年代の作品を通して
- 多田 早希 美術館の展示室における内装仕上材に関する研究 「新建築」掲載作品を通して
- 田中 里佳 サイトスペシフィックアートにおける作品と展示空間に関する研究  
「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」を事例として
- 藤井 悠子 ペトラ・プレーゼによるカーテンデザインの手法に関する研究
- 山川 慧子 建築作品における外装に関する研究 1980 年代の「新建築」掲載作品を通して

## 渡辺富雄准教授



- 池田 明子 陸上競技場における陸上競技大会当日の参加者の行動拠点と形成要因について  
—駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場の場合—
- 井田 衣美 教育・学習活動からみた水族館の計画について —栃木県なかがわ水遊園をケーススタディとして—
- 島田 梨瑛 Otto Wagner 近代建築黎明期におけるワグナーの作品と意義
- 長澤智恵子 サッカー競技場におけるフィールドと観客席の構成からみた見やすさについて  
—埼玉スタジアムとカシマサッカースタジアムの場合—
- 久田 梨紗 用途変更計画における建築的課題とその解決方法についての研究 —BELCA 賞受賞建築の事例を通して—
- 佐藤 崇 東京都区部における公立小学校跡地活用に関する研究  
(卒業設計)
- 野村雄一郎 Ocean View Hospice 葉山・緩和ケア医療（ホスピス）の計画と設計
- 安藤 崇之 生活の一部共同化によるコミュニティの再生 —少子高齢化に対応する集合住宅の設計—
- 川崎絵里佳 ノマドの森 —ノマドワーカーによる新しいオフィスの提案—
- 高見 翼 DANCHI GENERATION 高根台団地再生計画
- 星川雄太郎 refraction 谷戸の中の美術館

## 八藤後 猛専任講師



- 秋元 雅都 住宅バリアフリーの必要性の意識に関する研究 居住者と民間住宅供給者の意識
- 田島 愛 空間経験と好みの空間の関連性に関する研究
- 土屋 貴子 子どものこころの居場所としての保健室に関する研究 これからの学校建築における保健室の建築計画
- 中村 友哉 高齢者の住宅内転倒事故の要因に関する研究
- 西岡 渚・廣田 沙己  
子どもの家庭内事故に対する保護者の危険意識に関する研究  
保護者が容認できる軽度な事故の程度と事故対策の必要性
- 長谷川友樹 放課後の子どもの居場所に関する研究 世田谷区の新 BOP 事業を事例として
- 増田 文佳 小学校における児童の居場所としての小空間に関する研究

## 宇杉和夫准教授



- 石川 雄也 江戸東京の広場の継承と再生について 火除地を中心とした考察
- 薄葉 唯 児童館における多年齢間交流の場の研究
- 小石 直諒 車窓から見える鉄道沿線風景に関する研究 郊外における近景・遠景の斜面林景観等について
- 斉藤 大輝 路地の分類からみる路地の発生と継承に関する研究 本郷湯島の調査を通じて
- 田島洋一郎 江戸時代から残る堤と地域の原風景再生に関する研究 八丁堤と周辺地域の原風景の再生計画を通して
- 津野 俊介 仏領インドシナ都市の近代化と地域システム継承についての研究 ラウンドアバウトに着目して
- 朴 潤済 韓国・南部地域の景観認識と都市空間形成についての研究 郷校とその周辺環境の分析を通して
- 古山幸太郎 歴史地区とその周辺の集合住宅の景観的対応に関する研究 西安市曲江エリアの分析を通じて
- 丸 史明 西安交通大学の集合住宅と空間システムの保存に関する研究 西安交通大学メモリアルグリーンエリアの提案
- 山下 浩介 東京赤煉瓦アーチ高架橋の歴史的背景と高架下空間利用に関する研究
- 山中 道章 釜山市街地の形成と空間構成に関する研究

## 大川三雄教授・重枝 豊准教授・大山亜紀子助手



〈大川研究室〉

- 安東 啓司 建築家榎文彦にみる都市観の考察 ―「奥」の概念に至るまで―
- 大沼 義邦 建築家安井武雄の「自由様式」とその再評価
- 蜂谷 賢 フィリッポ・ブルネレスキにみる建築家像に関する考察 ―ローマ研究における技術と意匠の関係をを通して―
- 藤岡 寛司 外部と内部のつながりに見るアルヴァ・アアルト住宅作品の再評価  
―「コエ・タロ」(1952-1953)を境とする平面・断面構成の変化―
- 松山 和嵩 芸術家フンデルトヴァッサーの呈示する新しい建築家像
- 布施 美耶 英国ゴシック・リヴァイバルにおける A・W・N・ピュージンの果たした役割
- 清水 明 E.G. アスブルンドとその建築の持つ「象徴性」の表現に関する研究  
―ストックホルム博覧会を分岐とした建築作品の変遷から探る―
- 市村 牧子 オーギュスト・ペレの目指した「構築」の概念について

〈重枝研究室〉

- 小澤 俊輔 裳階付建造物の本屋軒と裳階軒の寸法構成に関する一考察  
―古代から近世にかけての裳階付建造物の比較を通して―
- 中村 尚志 双堂形式の寺院の空間構成手法に関する一考察 ―7世紀から11世紀の遺構を中心として―
- 林 慎也 塔婆における各層の平面及び断面寸法構成の変遷に関する一考察  
―古代、中世、近世の代表事例にみるプロポーションの比較を中心にして―
- 吉住絵里香 厳島神社本社の形成過程と平面・断面構成について  
―本社と客人神社の比較と『一遍上人絵伝』を用いた本社の復原考察―

横山 良 二条城二の丸の平面構成と座敷飾りの寸法構成に関する一考察  
一大広間、黒書院、白書院の比較・分析を通して一

## 根上彰生教授

飯塚由樹仁・中山 啓吾

休憩行動に着目した商店街来街者の行動特性に関する研究 一時間消費型商店街を目指して一

賀上 寛之・北潟 尚貴・坂下 光

中心市街地における居住機能導入による商店街の再編に関する研究 一小田原市中心市街地縁辺部に着目して一

関根 健策・長谷川悠己・柏倉 純平

都心型大学のオープンスペースに関する研究 一学生と一般人の行動に着目して一

長門 靖明・西澤 慶紀・松井 翔平

多世代が集う商業地区における利用形態に関する研究 一東京武蔵野市吉祥寺を事例として一

東原 一樹

東京都渋谷区における来街者の空間選択に関する研究 一メインストリートにおける来街者の行動分析を通して一



## 宇於嶋勝也准教授

池谷 望・関根 拓也・水谷 亮

区立小中学校の統廃合による学校跡地の活用手法に関する研究  
一東京 23 区における学校跡地活用の経緯に着目して一

柏崎 修・越川 傑

世界遺産登録に向けての都市型遺産のバッファゾーンの整備方針に関する研究  
一古都鎌倉のまちづくりを事例として一

永田 春輔・野中 静人・林 晃平

立地環境特性にみる商店街の業種構成の特徴に関する研究

西山 貴彦・野村 紫乃

人口動向による小学校への影響と実態に関する研究 一地域施設としての小学校の配置方針について一



## 川島和彦専任講師

戒田 健人・田辺 隼人・濱津 徹平

文化芸術活動を取り入れた歴史的建造物を活かしたまちづくりに関する研究  
一群馬県桐生市旧桐生市地区を事例として一

加藤 陽介・塩田 祥平・杉浦 元紀・澁谷 允彦

台湾・九份の住宅地における公私の中間領域としての街路空間に関する研究  
一空間構成と利用実態に着目して一

川鍋 充範・川合 直紀

駅前再開発による来街者の変化と周辺商店街の取り組みに関する研究 一北千住駅西口地区を事例として一



## 横内憲久教授

大仲 勇樹・尾崎 文彦

海の利用の履歴からみた大田区臨海部のまちづくりに関する研究

加藤 悠大・渡邊菜々子

都心部における海岸保全区域の新たなあり方に関する研究

西村 友秀・米田 真帆・室園 亮平

都市内における水上交通の利用促進に関する研究

野本 佳子・安水 瑠里・望月 敦生

都市部におけるエリアマネジメントに関する研究



## 羽入敏樹(短大)准教授・星 和磨(短大)助手

- 菅野めぐみ 調剤薬局におけるスピーチプライバシー保護システム導入に向けての課題抽出  
—その1 模擬薬局における実験的検討—
- 辻 邦彦 調剤薬局におけるスピーチプライバシー保護システム導入に向けての課題抽出  
—その2 服薬指導時における薬剤師の音声レベルに関する現地調査—
- 桐山 直己 室内音場におけるエネルギー減衰過程の空間偏差に関する検討
- 岩山 剛孟 インパルス応答におけるエネルギー累積曲線による室内音場の特徴抽出



## 吉野泰子(短大)教授

- 小林 遼平 ダイレクトヒートゲインによるチベット住宅の温熱環境改善効果
- 銭 葉蒨 チベット高原の住宅における屋外温熱環境改善に関する試み
- 長島あかり 密集地の都市型住宅を対象とした風洞実験 —外部間接風による主開口方位別風圧係数の実験的検討—
- 森 亮 パラソル型集光太陽電池の反射材料の選定に関する実験的検討
- 若林 竜矢 福祉住環境コーディネーターの現状及び教育機関へのフィードバックに関する研究



## 黒木二三夫(短大)教授

- 白井 紘乃 初学者のための幾何学的非線形理論の入門書



## 下村幸男(短大)教授・酒匂教明(短大)専任講師

- 浅沼友美子 RD法による小規模軸組木造建物の耐震補修効果の評価
- 北村 和久 鉄道軌道に隣接した木造建物の電車振動に関する研究  
その1 保線工事前後のパネル工法住宅の振動特性
- 中村 杏子 鉄道軌道に隣接した木造建物の電車振動に関する研究  
その2 小規模軸組建物の耐震補修前後の振動特性
- 長谷麻由加 H/Vスペクトルによる地盤内水平動の増幅特性の評価



## 小石川正男(短大)教授・田所辰之助(短大)准教授・矢代眞己(短大)准教授

〈卒業設計〉

- 岡崎 隆太 AKIBA SKY NET  
—高度高密度都市における偶発的コミュニケーションの発生—
- 赤木健志郎 サウンドスケープ・ロードパーク・ホール —都市空間の提案—
- 森 絵莉奈 21世紀長屋住宅 —京島3丁目補完計画—



## 平成21年度 短期大学部 卒業生一覧

相原裕太郎  
朝岡 泰光  
浅見 法寿  
有林 裕輔  
今村 一樹  
岩田 共弘  
宇野木隆宏  
大里 廉  
大竹 和也  
大橋 麻紀  
大羅 将  
岡田 英里

片岡 翔太  
金山 慶彦  
鎌田 暢  
川島 唯  
木村 美希  
倉島 貴昭  
具志堅いづみ  
小林 聡  
齋藤 達哉  
櫻井 陽子  
佐藤 昭仁  
佐藤 哲大

佐藤 光  
佐藤 将士  
澤田 瑛那  
篠崎 茉美  
篠塚 寛明  
清水 貴太  
シャミーサム昆  
鈴木 敦雄  
須田 翔  
田中 淳也  
津野田征宏  
中牧 佑輔

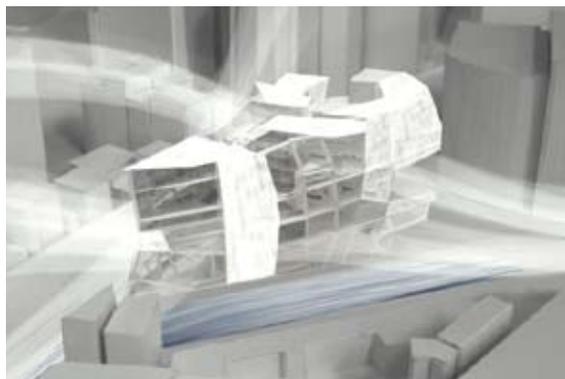
奈良 準也  
早瀬 悠真  
原 美菜  
樋口 智文  
平山 詠梨  
古瀬 司  
松ヶ野 真  
松崎 宏平  
三壁 祐哉  
水野 秀亮  
山田佑太郎  
陸田 真菜

### 桜建賞 卒業設計



中野マニア  
—商業空間の喧騒の中に  
浮遊する美術館—  
／池上晃司

### 奨励賞 卒業設計



Methodical Construction  
—分断された都市の境界面に建つ商業建築の提案—  
／今野和仁

### AD賞 卒業制作



生まれ！日大！  
—大規模建築と都市的周辺環  
境の相互関係に着目した創造  
都市的キャンパスコア  
／岸田一輝



交錯する都市、都市から建築へ、  
建築は交錯する  
／瀬戸基聡

吉田鉄郎賞 修士設計



天竜区役所計画  
—地域基幹産業としての林業振興を目的とした木造庁舎の設計—  
／石ヶ谷望未

駿建賞 修士設計



八潮パークタウン  
住まい方再生計画  
／田村圭祐



甲府城址図書館 —甲府城址を活用した山梨県立図書館の設計—  
／井上峰一



新国立国会図書館  
—西新宿三丁目再開発をとまなう国立国会図書館の設計—  
／柳橋啓一



小学校統廃合に伴うフリースクールの計画  
—多摩市立豊ヶ丘小学校をケーススタディとして—  
／前坂達男

# 新任教員紹介

## 山田明里 先生 (助手)



### 略歴

- 2005年 日本大学理工学部建築学科卒業
- 2007年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻  
博士前期課程修了 (本杉研究室)
- 2007～10年 (株)渡辺明設計事務所

この春より、建築設計の助手を務めさせていただくことになりました山田明里です。在学中は本杉研究室に所属し、歌舞伎の構造を探ることを通じて、現代版歌舞伎小屋を設計し、博士前期課程を修了しました。学生で時間がたくさんあったのと、舞台に携ることがとにかく楽しかったので、舞台演出のアルバイトで現場体験したり、劇場の技術を学びに専門家の先生を訪ねたりと、研究に打ち込んだのを覚えています。卒業後はアトリエ事務所で、住宅・別荘を3件、オフィスの内装を2件担当しました。所長は72歳という、建築だけでなく人生の大先輩でしたが、素材や空間、光、風の使い方のみならず、建築家としての役割、施主や職人さんへの礼儀に至るまでの教え一つ一つに、言葉の重みがあり、建築という仕事をする上での考え方のベースが構築できたように思います。モチベーションが下がった時は、ぜひ設計講師室に足を運んでください。少ない経験で恐縮ですが、皆さんの手助けができれば光栄ですので、どうぞよろしく願いいたします。(やまだあり)

## 研究室所在一覧

### 駿河台校舎

#### 5号館

- 3 F 建築学科コンピュータ演習室 (534室)
- 4 F 建築教室事務室 (栗原・矢萩 542室)
- 5 F 設計講師室 (岩崎・山田(明) 553室)
- 6 F 対震構造研究室  
(古橋 564A室・秦 564B室)
- 地盤基礎研究室  
(安達 565A室・山田(雅) 565B室)
- 材料施工研究室 (中田 566A室)
- RC構造研究室  
(白井 567A室・田嶋 567B室)
- 構造系助手室 (新井 568A室)
- 鋼構造研究室 (半貫 568B室)
- 空間構造デザイン研究室  
(岡田 569B室・宮里 569A室)
- 7 F 建築史・建築論研究室 (大川 576A室・  
重枝 575A室・小島 575B室)
- 環境系助手室 (福澤 577A室)
- 建築環境・設備研究室 (池田 577B室)
- 蜂巢研究室 (蜂巢 578A室)

- 環境・音響工学研究室 橋本研究室  
(橋本 578B室)
- 建築音響研究室  
(井上 579B室・富田 579A室)
- 8 F 宇杉研究室 (宇杉 584A室)
- 八藤後研究室 (八藤後 585A室)
- 渡辺研究室 (渡辺 585B室)
- 本杉研究室 (本杉 586A室)
- 佐藤慎也研究室 (佐藤(慎) 586B室)
- 山崎研究室 (山崎 587A室)
- 横河研究室 (横河 587B室)
- 佐藤光彦研究室 (佐藤(光) 588A室)
- 山中研究室 (山中 588B室)
- 今村研究室 (今村 589B室)
- 9 F 都市計画研究室 (根上 595A室・  
宇於崎 595B室・川島 594B室)
- 防災科学研究室 (三橋 596A室)
- ウォーターフロント計画研究室  
(横内 596B室)

### 船橋校舎

#### 5号館

- 4 F 吉野研究室 (吉野 545A室)
- 大塚研究室 (大塚 545A室)
- 田所研究室 (田所 545B室)
- 矢代研究室 (矢代 546A室)
- 小石川研究室 (小石川・高田 546B室)

#### 6号館

- 2 F 羽入研究室 (羽入・星 622A室)

#### 9号館

- 1 F (短)建設事務室 (保坂 915室)
- 2 F 黒木研究室 (黒木 921B室)
- 酒匂研究室 (酒匂 926A室)
- 下村研究室 (下村 926C室)

■ 2008年に改修が行われ、現在は建築学科棟として使用されている「日本大学理工学部駿河台校舎5号館」が、「第19回BELCA賞 ベストリフォーム部門」（主催：建築・設備維持保全推進協会）を受賞した。この賞は優良既存建築物を表彰するもので、1959年に竣工した「ニューブルーリズム建築」の代表作に対する改修が、「耐震性の向上」を主目的として、その建築の存在意義と歴史的継続性を担保しながら、現代の最先端技術とあるべき現代建築の意義を表明するものと評価された。

■ 佐藤慎也研究室が、「日大×藝大+mmp 戯曲をもって町へ出よう。」と題した演劇シリーズの公演を行った。この



『しあわせな日々』(撮影：山本尚明)



『エレクトラ』(撮影：山本尚明)

## 教室ぶろむなード

企画は、東京都文化発信プロジェクトにおける「学生とアーティストによるアート交流プログラム」の一環として、3人の演出家を迎えて、東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科市村作知雄研究室との共同作業によって実施されたもの。いずれも劇場以外の町なかを会場として、1月31日に小岩の江戸川河川敷で『しあわせな日々』(演出：中野成樹)、2月21日に谷中の民家で『エレクトラ』(演出：mmp 長島雄)、3月20、21日に調布の京王フローラルガーデンで『桜の園』(演出：矢内原美邦)を上演した。

■ 空間構造デザイン研究室が、2月26日～3月7日に丸ビル・マルキューブで開催された「アーキニアリング・デザイン展 東京凱旋展」でA-Domeの製作を行った。この展覧会は、2008年10月の東京展からはじまり、2009年4～12月に札幌から福岡まで全国9会場で巡回展を行い、最後に再び東京で行われたもの。A-Domeは、会場中心に設置された、アルミパイプとステンレスジョイントによる直径6mのジオデシック構造によるドーム。

■ 平成21年度の卒業式が3月25日に挙行された。卒業生・修了生は、建築学科284名(9月卒業8名含む)、大学院建築学専攻博士前期課程72名、同後期課程6名、同不動産科学専攻博士前期課程13名、短大建設学科48名であった。

■ 内藤正昭短大専任講師、梅田綾助手、大山亜紀子助手、高橋裕子助手、浜野祐

子助手が3月31日をもって退職された。永い間ありがとうございました。

■ 4月1日付の人事で、重枝豊准教授が教授に、八藤後猛専任講師が准教授に昇格された。

■ 4月1日付で新しく建築学科のメンバーになったのは、新井佑一郎助手、小島陽子助手、福澤亜希子助手、山田明里助手の4名である。

■ 4月1日付で新しく短大建設学科のメンバーになったのは、坂根裕梨助手の1名である。

■ 建築学科、大学院建築学専攻の非常勤講師の新旧交代は以下の通り(敬称略)。

〈新任〉

五十田 博(建築構法Ⅱ)

川崎 直宏(住環境計画)

河内 一泰(デザイン基礎、建築設計Ⅰ)

清 広歳(建築基礎構造特論Ⅱ)

古澤 大輔(デザイン基礎、建築設計Ⅰ)

本間 至(建築設計Ⅰ、Ⅱ)

安原 幹(建築設計Ⅰ、Ⅳ)

山梨 知彦(設計方法特論)

山村 能郎(不動産マーケティング)

〈退任〉

大貫 達雄(地域開発計画Ⅱ)

小宮 功(建築設計Ⅱ、Ⅲ)

佐藤 文(建築設計Ⅱ、Ⅳ、設計演習Ⅰ)

塩田 能也(建築設計Ⅲ、Ⅳ、設計演習Ⅰ)

清水 千弘(不動産マーケティング)

茶谷 文雄(建築基礎構造特論Ⅱ)

平野 陽子(建築構法Ⅱ)

藤江 秀一(設計方法特論)

村松 基安(建築設計Ⅲ、Ⅵ、設計演習Ⅰ、Ⅱ)

■ 短大建設学科の非常勤講師の新任は以下の通り(敬称略)。

〈新任〉

和美 廣喜(建築施工法)

### 駿建目次

2010年4月号 Vol.38 No.1 通巻158号

#### 表紙「A-Dome」

設計：斎藤公男+空間構造デザイン研究室

撮影：阿野太一

卒業達成度評価科目「建築学総合演習」Q&A	2	平成21年度	
平成22年度 建築学科 履修要項	3	博士論文 修士論文・設計 タイトル一覧	21
建築学科 専門科目使用教科書並びに参考書	12	平成21年度 卒業研究・設計 タイトル一覧	24
平成22年度 短期大学部建設学科 履修要項	15	平成21年度 短期大学部 卒業生一覧	33
短期大学部建設学科		平成21年度 各賞受賞作品	33
専門科目使用教科書並びに参考書	17	新任教員紹介	35
平成21年度 各賞受賞者一覧	19	研究室所在一覧	35
		教室ぶろむなード	36